州島梅埜編
重野康燕閱

校刊十八史略

晚翠樓藏版

24.0269

自序

史莫備於紀傳。莫善於編年。紀傳之體志表世家諸書備焉。舉一代之事。綱羅統載。洵爲史之正體矣。然紀傳分篇帝紀惟揭大綱。非參諸各書。無明其洽忽而考成敗。編年則繫諸年月之下。屬辭比事。提綱挈領。燎若指掌。則其用有勝于紀傳者。此二史之所以並行而不可

自序

史莫備於紀傳。莫善於編年。紀傳之體志表世家諸書備焉。舉一代之事。網羅統載。洵爲史之正體矣。然紀傳分篇。帝紀惟揭大綱。非參諸各書。無明其洽忽而考成敗。編年則繫諸年月之下。屬辭比事。提綱挈領。燎若指掌。則其用有勝于紀傳者。此二史之所以並行而不可

10269

闕一也。然而編年之撰。或有難乎紀傳者。何則年代之久。事變之多。苟欲網羅靡遺。則繁蕪冗雜。如米鹽簿帳。何能得會要領而詳條貫。如要其簡。則斷爛朝報。僅窺梗槩。又何能悉事實而全首尾。惟夫胸羅一代。曉然熟悉。就事而離合錯綜。然後可使首尾相應。繁簡得宜。此編年之所以爲難也。本朝史乘殘缺。編年之史。亦不甚多。近日史編之上梓者。槩皆不能無得失。或有紕繆雜出誤後生者。識者病焉。余承乏本縣。提掌學務。公務之暇。欲輯一書以課生徒。乃國字起草。上起神武紀元。下迄今日。檃括海內之沿革。以略敘治亂興廢之跡。名曰古今紀要。顧余淺陋。詎敢自任史筆。其名紀要者。徒舉古今要領云爾。雖然。升

高必自下。陟遐必自邇。讀者就以明其大勢。然後及正史。未必無少補也。屬剞劂告成。乃舉區區撰述之意。以諗讀此編者。

明治十四年一月九日

埼玉　梅坪川島孝撰

校刻

古今紀要凡例

一此編神武天皇即位元年ヨリ起リ。今上天皇明治十三年ニ畢ル。主トスル所天下ノ大勢古今ノ治亂變遷ヲ明ニスルニ在リ。故ニ瑣事ハ。省キテ載セズ。

一此編記スル所上古ヲ畧シテ。中古ヲ詳ニス。近世ノ如キハ。尤之ヲ詳ニス。王室中興ノ機。此ニ兆スルヲ以テナリ。明治以來ハ稍之ヲ畧ス。

一事ハ其顚末ヲ撮ミ。人ハ其出處ヲ詳ニシ。君臣ノ遭遇。亂賊ノ割據。凡世道民彝ニ關スル者ハ

之ヲ書ス。成敗ノ跡。邪正ノ辨ヲシテ昭然タラシメンコトヲ欲スレハナリ。

一天皇ノ即位。立后立太子及遷都ノ事。蠲租ノ詔。三韓ノ貢獻。朝章ノ沿革等。故アレハ之ヲ書シ。否ラサレハ書セス。

一公卿ノ補任。事ナキ者ハ書セス。將軍ノ繼襲ハ之ヲ書ス。外國ノ使聘。其來ルハ書シ。去ルハ書セス。事故アレハ必ス之ヲ書ス。

一古來朝廷授クル所ノ官爵ハ之ヲ書ス。元弘建武以還。任職法ニ違ヒ。群國上ニ僭ス。故ニ畧シテ書セス。維新以後ハ亦之ヲ書ス。

一本朝侯爵ナシ。近古ヨリ大小名ノ稱アリ。蓋諸侯ノ例ニ準スルニ似タリ。故ニ叙事ニ至リ。間侯字ヲ用ウ。素大小名ト異ルナシ。

一幕府ノ職官。大老老中若年寄所司代奉行代官目附等ノ若キ。雅馴ナラスト雖。妄ニ之ヲ改メ叵シ。皆其唱フル所ニ從ヒテ之ヲ書ス。

一官銜初メ見ル者ハ具ニ書ス。數次ニ至レハ之ヲ畧ス。姓名ヲ書スル。多クハ名ヲ以テシ。間字ヲ以テスルアリ。名字ヲ詳ニセサル者ハ。姑ク

通稱ニ從フ。

一此編六國史大日本史等ニ據ル。南北一統以後。正史ノ徵ス可キナシ。故ニ參攷スルニ野史家乗ヲ以テス。其出處ヲ註セサルハ。繁ヲ省ケハナリ。

一此編童習ニ便ナラシムルニ在リ故ニ行文ヲ平易ニシテ。解シ易キヲ主トス。抑編修易事ニ非ス。余ノ寡陋。詎ソ敢テ其任ニ當ランヤ。四方ノ君子。幸ニ是正セヨ。

川島棋坪識

皇統畧系

第一　神武天皇　神日本磐余彦火火出見尊

第二　綏靖天皇　神渟名川耳尊

第三　安寧天皇　磯城津彦玉手見尊

第四　懿德天皇　大日本彦耜友尊

第五　孝昭天皇　觀松彦香殖稻尊

第六　孝安天皇　日本足彦国押人尊

第七　孝靈天皇　大日本根子彦太瓊尊

第八　孝元天皇　大日本根子彦国牽尊

第九　開化天皇　稚日本根子彦大日日尊

第十　崇神天皇　御間城入彦五十瓊殖尊

第十一　垂仁天皇　活目入彦五十狹茅尊

第十二 景行天皇 大帶彦忍代別尊

日本武尊 小碓尊

第十三 成務天皇 稚足彦尊

第十四 仲哀天皇 足仲彦尊

第十五 應神天皇 譽田別尊

第十六 仁德天皇 大鷦鷯尊

稚渟毛二派皇子——意富冨杼王——

宇非王——彦主人王 一名汙斯王

第十七 履仲天皇 大兄去來穗別尊

磐坂押羽皇子

第十八 反正天皇 蟹瑞齒別尊

第十九 允恭天皇 雄朝津間稚子宿祢尊

第二十 安康天皇 穴穗尊

第廿一 雄略天皇 大泊瀬幼武尊

第廿二 清寧天皇 白髮武廣国押稚日本根子尊

第廿三 顯宗天皇 弘計尊

第廿四 仁賢天皇 億計尊

第廿五 武烈天皇 小泊瀬稚鷦鷯尊

第廿六 繼體天皇 男大迹尊

第廿七 安閑天皇 廣国押武金日尊

第廿八 宣化天皇 武小廣国押盾尊

第廿九 欽明天皇 天国排開廣庭尊

第三十 敏達天皇 渟名倉太珠敷尊

押坂彦人大兄皇子 名麻呂古皇子

第卅一 用明天皇 橘豐日尊

第卅三 推古天皇 豐御食炊屋姬天皇

第卅二 崇峻天皇 泊瀬部若雀尊

第卅四 舒明天皇 息長足日廣額天皇

茅渟王

第卅五 皇極天皇 天豐財重日足姬天皇

第卅七 齊明天皇 皇極天皇重祚

第卅六 孝德天皇 天萬豐日天皇

第卅八 天智天皇 天命開別天皇

第四十 天武天皇 天渟中原瀛真人天皇

第四十一 持統天皇 高天原廣野姬天皇

第四十三 元明天皇 日本根子天津御代豐田成姬天皇

第卅九 弘文天皇 大友皇子

施基皇子

草壁皇子尊

舍人親王

第四十二 文武天皇 天之真宗豐祖父天皇

第四十四 元正天皇 日本根子高瑞淨足姬天皇

第四十五 聖武天皇 天璽國押開豐櫻彥天皇

第四十六 孝謙天皇 阿倍

第四十八 稱德天皇 孝謙天皇重祚稱高野天皇

第四十七 淳仁天皇 大炊

第四十九 光仁天皇 天宗高紹天皇

第五十 桓武天皇 日本根子皇統彌照天皇

第五十一 平城天皇 日本根子天推國高彦天皇

第五十二 嵯峨天皇 神野

第五十三 淳和天皇 日本根子天高譲渡天皇

第五十四 仁明天皇 日本根子天豐豐聰睿天皇

第五十五 文德天皇 道康

第五十八 光孝天皇 時康

第五十六 清和天皇 惟仁

第五十七 陽成天皇 貞明

第五十九 宇多天皇 定省

第六十 醍醐天皇 敦仁

第六十一 朱雀天皇 寛明

第六十二 村上天皇 成明

第六十三 冷泉天皇 憲平

第六十四 圓融天皇 守平

第六十五 花山天皇 師貞

第六十七 三條天皇 居貞

第六十六 一條天皇 懐仁

第六十八 後一條天皇 敦成

第六十九 後朱雀天皇 敦良

第七十 後冷泉天皇 親仁

第七十一 後三條天皇 尊仁

第七十一 白河天皇 央仁

第七十二 堀河天皇 善仁

第七十四 鳥羽天皇 宗仁

第七十五 崇德天皇 顯仁

第七十七 後白河天皇 雅仁

第七十六 近衛天皇 體仁

第七十八 二條天皇 守仁

第七十九 六條天皇 順仁

第八十 高倉天皇 憲仁

第八十一 安德天皇 言仁

後高倉院 守貞親王

第八十二 後鳥羽天皇 尊成

第八十三 土御門天皇 為仁

第八十四 順德天皇 守成

第八十五 仲恭天皇 懐成

第八十六 後堀河天皇 茂仁

第八十七 四條天皇 秀仁

第八十八 後嵯峨天皇 邦仁

第八十九 後深草天皇 久仁

第九十 龜山天皇 恒仁

第九十一 後宇多天皇 世仁

第九十二 伏見天皇 熙仁

第九十三 後伏見天皇 胤仁

光嚴天皇 量仁

第九十五 花園天皇 富仁
第九十四 後二條天皇 邦治
第九十六 後醍醐天皇 尊治
第九十七 後村上天皇 義良初名憲良
第九十八 長慶院 寛成親王
第九十九 後龜山天皇 恕成
第九十九 後小松天皇 幹仁
第百 稱光天皇 實仁
第百一 後花園天皇 彦仁
第百二 後土御門天皇 成仁
第百三 後柏原天皇 勝仁
第百四 後奈良天皇 知仁
光明天皇 豐仁
崇光天皇 興仁
榮仁親王
後崇光院 貞成親王
後光嚴天皇 彌仁
後圓融天皇 滿仁

第百五 正親町天皇 方仁
陽光院 誠仁親王
第百六 後陽成天皇 周仁
第百七 後水尾天皇 政仁
第百八 明正天皇 興子
第百九 後光明天皇 紹仁
第百十 後西院天皇 良仁
第百十一 靈元天皇 識仁
第百十二 東山天皇 朝仁
第百十三 中御門天皇 慶仁
直仁親王
典仁親王

第百十四 櫻町天皇 昭仁

第百十六 後櫻町天皇 智子

第百十五 桃園天皇 遐仁

第百十七 後桃園天皇 英仁

第百十八 光格天皇 兼仁

第百十九 仁孝天皇 惠仁

第百二十 孝明天皇 統仁

第百二十一 今上天皇 睦仁

帝國圖書館藏

校刻古今紀要卷一

重野成齋閲
川島祺坪編

帝國圖書館藏

神武天皇ハ。天照太神五世ノ孫鸕鷀草葺不合尊ノ第四子ニシテ。母ハ玉依姫ナリ○元年。正月。天皇倭ノ橿原宮ニ卽位ス。初太神ノ子正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊。天津彦彦火瓊瓊杵尊ヲ生ム。太

三種神寶

神八坂瓊曲玉。八咫鏡。叢雲劒ヲ以テ瓊瓊杵尊ニ賜ヒテ曰ク。此ヲ以テ豐葦原瑞穗國ヲ治メハ。寶祚ノ隆ナル。當ニ天壤ト窮リ無カルヘシト。相傳ヘテ天皇ニ至ル。天皇日向ニ在リ。西州久シク王

東征

化ヲ被リ。東國未服從セス。乃親舟師ヲ帥キテ東征シ。筑紫ヨリ安藝ヲ過キ。吉備ニ駐マル三年。舟糧ヲ備ヘ。浪速ノ門ニ至リ。流ニ溯リテ河内ニ入リ。兵ヲ勒シテ龍田ニ向フ。長髓彦饒速日命ヲ擁シ。皇師ヲ孔舍衛坂ニ邀ヘ擊ツ。皇師利アラス。轉シテ紀伊ヨリ進ミ。八十梟帥ヲ國見岳ニ擊チテ之ヲ誅ス。饒速日命長髓彦ヲ殺シテ降ル。是ニ至リ。中原全ク定マル○二年。二月。功ヲ論シ賞ヲ行ヒ。諸功臣ヲ以テ國造縣主ト爲ス○四年。二月。靈時ヲ鳥見山ニ作リ。皇祖天神ヲ祀ル○七十六年。

長髓彦ハ十梟帥ヲ誅ス

靈時ヲ作ル

三月。天皇崩ス。天皇明達ニシテ豁如タリ。神聖ノ烈ヲ承ケ。東征ノ畧ヲ奮ヒ。數年ナラスシテ。群雄ヲ掃蕩シ。皇基ヲ恢廓シ。盛德大業。萬世ニ光被ス。皇太子立ツ。

綏靖天皇ハ。神武帝ノ第五子ナリ。神武帝崩ス。天皇悲哀ニ堪ヘス。政ヲ庶兄手研耳ニ委ヌ。手研耳潛ニ異圖ヲ懷ク。天皇乃同母兄神八井耳ト謀リテ之ヲ殺ス○三十三年。五月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

手研耳不軌ヲ圖ル

安寧天皇ハ。綏靖帝ノ子ナリ○三十八年。十二月。

天皇崩ス。皇太子立ツ。
懿德天皇ハ。安寧帝ノ第二子ナリ○三十四年。九月。天皇崩ス。皇太子立ツ。
孝昭天皇ハ。懿德帝ノ子ナリ○八十三年。八月。天皇崩ス。皇太子立ツ。
孝安天皇ハ。孝昭帝ノ第二子ナリ○百二年。正月。天皇崩ス。皇太子立ツ。
孝靈天皇ハ。孝安帝ノ子ナリ○七十六年。二月。天皇崩ス。皇太子立ツ。
孝元天皇ハ。孝靈帝ノ長子ナリ○五十七年。九月。

天皇崩ス。皇太子立ツ。
開化天皇ハ。孝元帝ノ第二子ナリ○六十年。四月。天皇崩ス。皇太子立ツ。
崇神天皇ハ。開化帝ノ第二子ナリ○五年。饑疫ス
○六年。神鏡靈劒ヲ倭ノ笠縫邑ニ遷シ。天照太神ヲ祭ル。是ヨリ先。歷朝之ヲ殿内ニ奉ス。天皇神威ヲ瀆サンコトヲ恐レ。別ニ鏡劒ヲ模造シテ。御座ニ奉安ス○七年。十一月。大物主及大國竜神ヲ祭リテ諸國ノ疾疫ヲ禳ヒ。又天社國社神地神戸ヲ定ム○十年。七月。將軍ヲ北陸東海西道丹波ニ遣

饑疫ス
天照太神ヲ祭ル
將軍ヲ四道ニ遣ル

リ。四方ヲ巡按シ。教化ニ從ハサル者ヲ伐タシム。會武埴安彦反ス。擊チテ之ヲ平ク○十二年。九月始メテ人民ヲ校シ。長幼ヲ叙シ。男女ノ調役ヲ課ス○十七年。十月。諸國ヲシテ船舶ヲ造ラシム○六十五年。七月。任那始メテ入貢シ。一將軍ヲ奉シテ其國ヲ鎮セント請フ。乃鹽乘津彦ヲ遣ル○六十八年。十二月。天皇崩ス。天皇卽位ノ初。疫行ハレ盜起ル。乃精ヲ勵マシ治ヲ圖リ。神祇ヲ敬ヒ。叛亂ヲ定ム。是ニ至リ。家給シ人足リ。天下大ニ治マル。稱シテ御肇國天皇ト云フ。皇太子立ツ。

調役ヲ課ス

任那入貢

家給シ人足ル

垂仁天皇ハ。崇神帝ノ第三子ナリ○二年。初任那ノ使者留リテ天皇ニ侍ス。是ニ至リ歸ラントヽ請フ。乃之ヲ許シ。厚ク其主ニ賜フ。新羅ノ人要シテ途ニ奪フ。二國始メテ怨ヲ構フ○三年。三月。新羅ノ王子歸化ス。邑ヲ但馬ニ賜フ○五年。十月。狹穗彦ヲ誅ス。狹穗彦ハ皇后ノ兄ナリ。陰ニ異圖ヲ懷キ。皇后ヲシテ逆ヲ行ハシメントス。皇后之ヲ天皇ニ告ク。乃兵ヲ遣リテ之ヲ討タシム。狹穗彦拒キ守ル。皇后奔リテ城ニ入リ。狹穗彦ト共ニ焚死ス○七年。七月。出雲ノ人野見宿禰ヲシテ。當麻ノ角力ヲ觀ル

任那新羅怨ヲ構フ

狹穗彦ヲ誅ス

蹶速ト角力セシメ。之ヲ觀ル○二十五年。三月。天照太神ヲ伊勢ニ遷シ。齋宮ヲ五十鈴川上ニ建ツ

齋宮ヲ建ツ

○二十七年。八月。兵器ヲ以テ祭幣ト為ス○是歲。屯倉ヲ來目邑ニ置ク○二十八年。十月。詔シテ殉死ヲ禁ス○三十二年。七月。野見宿禰土偶ヲ以テ殉葬セシト請フ。天皇之ヲ嘉シ。立テ、永制ト為ス○三十四年。三月。天皇山背ニ幸ス○三十五年。諸國ヲシテ池溝ヲ開キ。灌漑ニ便セシム○九十九年。七月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

屯倉ヲ置ク

殉死ヲ禁ス

池溝ヲ開ク

景行天皇ハ。垂仁帝ノ第三子ナリ。○四年。二月。天皇美濃ニ幸ス○十二年。七月。熊襲叛ス。天皇親征シ。行、周芳豐前ノ諸賊ヲ勦シ。日向ニ駐マル六年。筑紫悉平ク○二十五年。七月。武内宿禰ヲ遣リテ。東北諸國ヲ觀察セシム○二十七年。二月。武内還リ奏ス。東夷ニ日高見國アリ。風俗勇悍ニシテ。土地肥沃ナリ。收メテ朝廷ノ用ト為スヘシト○八月。熊襲又叛ス。皇子日本武尊ヲシテ之ヲ討タシム。尊時ニ年十六。女裝シテ賊巢ニ入リ。其酋川上梟帥ヲ刺ス。餘衆遂ニ平ク○四十年。六月。東夷叛ス。日本武尊ヲシテ之ヲ征セシム。尊駿河ノ賊ヲ

熊襲叛ス

日高見國

日本武尊賊酋ヲ刺ス

210269

日本武尊蝦夷ノ境ニ臨ム

誅シ。相模ヨリ海ニ航シ。上總ニ至リ。轉シテ陸奥ニ入リ。蝦夷ノ境ニ臨ム。夷酋皆降附ス○四十三年。尊還リテ上野信濃ヲ巡撫シ。遂ニ膽吹山ノ妖賊ヲ伐チ。疾ヲ獲テ伊勢ニ至リ。使ヲ遣リテ捷ヲ京師ニ奏セシメ。尋キテ能褒野ニ薨ス。天皇深ク悼惜ス○五十三年。八月。天皇東巡シテ。日本武尊ノ平クル所ノ諸國ヲ歴覽ス○五十五年。二月。彦狹島王ヲ遣リ。東山道十五國ヲ都督セシム。路ニ薨ス。翌年。其子御諸別ヲシテ職ヲ襲カシム。時ニ蝦夷亂ル。御諸別討チテ之ヲ平ク○五十七年。十

天皇東巡

東山道都督ヲ置ク

田部屯倉ヲ置ク

武内宿禰ヲ大臣ト為ス

造長ヲ建テ稲置ヲ置ク

月。田部屯倉ヲ諸國ニ置ク○五十八年。二月。天皇淡海ニ幸シ。志賀ニ居ル。高穴穗宮ト云フ○六十年。十一月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

成務天皇ハ。景行帝ノ第四子ナリ。景行帝ニ從ヒ。高穴穗宮ニ在リ。是ニ至リ即位ス○三年。正月。武内宿禰ヲ以テ大臣ト為ス。大臣此ニ始マル○五年。九月。國郡ニ造長ヲ建テ。縣邑ニ稲置ヲ置キ。山河ヲ界シテ。國縣ヲ分チ。阡陌ニ隨ヒテ。邑里ヲ定ム。百姓安居シ。天下大ニ治マル○六十年。六月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

仲哀天皇ハ。景行帝ノ孫ニシテ。日本武尊ノ第二子ナリ。成務帝子ナシ。立テヽ嗣ト爲ス。是ニ至リ即位ス○元年。十月。大伴武以ヲ以テ大連ト為シ。大臣ト並ニ朝政ヲ輔ケシム。大連此ニ始マル○大伴武以ヲ大連ト為ス

二年。正月。氣長足姫尊ヲ立テヽ皇后ト爲ス○氣長足姫尊ヲ皇后ト為ス二月。天皇角鹿ニ幸ス。皇后從フ。遂ニ巡狩シテ紀伊熊襲復叛ス

ニ至ル。會熊襲叛ス。天皇舟師ヲ帥ヒテ之ヲ征シ。皇后コシテ穴門ニ會セシメ豐浦宮ニ居ル○八年。正月。筑紫ニ幸シ。橿日行宮ニ居リ。進討ヲ議ス。西方ニ寶國アリ

皇后曰ク。聞ク。西方ニ寶國アリ。新羅ト稱ス。若先

之ヲ征セハ。熊襲自服セン。天皇從ハス。進ミテ熊襲ヲ攻ム。克タス○九年。二月。天皇崩ス。皇后武内宿禰ト謀リ。秘シテ喪ヲ發セス。鴨別ヲシテ熊襲ヲ討タシム。熊襲服ス。皇后新羅ヲ征ス

皇后新羅ヲ征ス

適、産月ニ當ル。祝シテ曰ク。事竟リテ還ラン日。茲地ニ娩セヨト。遂ニ舟師ヲ帥ヒテ。新羅ニ至ル。歲貢八十船

新羅懼レテ内附シ。金銀彩帛八十船ヲ約シ。歲貢ト爲ス。高麗百濟亦風ヲ望ミテ歸降ス。是ニ於キテ振旅シテ還リ。皇子ヲ筑紫ノ蚊田ニ生ム。皇后凱旋ス

應神天皇ハ。仲哀帝ノ第四子ニシテ。母ハ神功皇

后ナリ○辛巳歳二月。皇后天皇ヲ奉シ。豐浦宮ニ至リ。仲哀帝ノ喪ヲ發シ。將ニ京師ニ還ラントス。天皇ノ庶兄麛坂忍熊二王。兵ヲ擧ケテ皇師ヲ拒ク。會麛坂死ス。忍熊亦敗レテ勢多ニ死ス○十月。群臣皇后ヲ尊ヒテ皇太后ト爲シ。朝ニ臨ミ政ヲ攝ス○癸未歳。正月。天皇ヲ稱シテ皇太子ト爲ス○辛亥歳。正月。日本府ヲ任那ニ置キ。諸韓國ヲ統制ス○亡丑歳。四月。皇太后崩ス。政ヲ攝スル六十九年。神功皇后ト謚ス○元年。正月。天皇位ニ即ク○五年。八月。諸國ノ海人山守部ヲ定ム○七年。高麗百濟任那新羅並ニ入貢ス。其人ヲ役シテ池ヲ鑿タシム。名ケテ韓人池ト云フ○九年。四月。武内宿禰ヲシテ筑紫ヲ監察セシム。其弟甘美之ヲ讒ス。天皇二人ヲ鞫訊セシム。甘美罪ニ服ス○十四年。二月。百濟縫衣ノ女ヲ貢ス○十五年。八月。百濟王其臣阿直岐ヲシテ良馬ヲ貢セシム。阿直岐經典ニ通ス。皇子雅郎子從ヒ學フ。阿直岐其國ノ博士王仁ヲ薦ム○十六年。二月。百濟王仁ヲシテ織縫釀酒鑄冶ノ工ヲ率キテ來朝セシム。論語千字文ヲ獻ス。雅郎子亦師トシ學フ。文教ノ興ル。此ニ

皇太后政ヲ攝ス

日本府ヲ置ク

韓人池

百濟王良馬ヲ貢ス

雅郎子王仁ヲ師トス

始マル○二十年。九月。漢劉宏ノ裔阿知使主十七縣ノ人口ヲ率キテ來歸ス○二十八年。九月。高麗來聘ス。稚郎子其表文倨慢ナルヲ以テ。奏シテ使者ヲ責メ。其表ヲ壞ル○三十七年。二月。阿知使主ヲ遣リ。工女ヲ吳ニ求メシム○四十年。正月。菟道稚郎子ヲ立テ、皇太子ト為ス○四十一年二月。天皇崩ス。

高麗ノ表ヲ壞ル

工女ヲ吳ニ求ム

仁德天皇ハ。應神帝ノ第四子ナリ○元年。正月。天皇位ニ即ク。應神帝ノ崩スルヤ。稚郎子位ヲ天皇ニ讓ル。天皇聽カス。會。廢兄大山守陰ニ異圖ヲ蓄フ。稚郎子之ヲ誅シ。天皇ニ菟道ニ避ケ。相讓ル三年。貢獻スル者。歸スル所ヲ知ラス。稚郎子天皇ノ志奪フヘカラサルヲ知リ。遂ニ自殺ス。是ニ至リ。天皇即位シ。浪速ノ高津宮ニ遷ル○十一年。十月。渠ヲ宮北ニ鑿チ海ニ通ス。號シテ堀江ト曰フ。又茨田堤ヲ築キ。以テ北河ノ横溢ヲ防ク。會。新羅人貢ス。因リテ其人ヲ役ス○十二年。大溝ヲ山背ニ鑿チ。以テ田ニ溉ク。民之ヲ利トス○十三年。九月。茨田ノ屯倉ヲ置キ。春米部ヲ定ム○十七年。新羅歲貢ヲ闕ク。使ヲ遣リ之ヲ責問ス。乃絹帛雜品八

相讓ル三年

浪速堀江

春米部ヲ定ム

十艘ヲ貢ス○五十三年。新羅貢セス。將軍竹葉田道ヲ遣リテ之ヲ討タシメ。四邑ノ民ヲ虜ニシテ還ル○五十五年。蝦夷叛ス。田道ヲ遣リテ之ヲ討タシム。軍敗レテ之ニ死ス○六十二年。始メテ氷室ヲ置ク○八十七年。正月。天皇崩ス。天皇寛仁ニシテ儉德アリ。嘗テ高臺ニ登リ遠望ス。人烟稀少ナリ。乃民ノ貧キヲ知リ。租稅ヲ除ク三年。復臺ニ登ル。炊烟盛ニ起ル。喜ヒテ皇后磐之媛ニ謂ヒテ曰ク。朕富メリト。皇后曰ク。屋漏リ衣敝ル。何ソ富メリト謂ハン。天皇曰ク。君ハ民ヲ以テ本ト為ス。民ノ富メルハ卽朕ノ富メルナリト。諸民稅ヲ輸シテ宮ヲ修メシム。是ニ於キテ風化大ニ行ハレ。刑措ク二十餘年。登遐ノ日。民考妣ヲ喪スルカ如シ。皇太子立ツ。

氷室ヲ置クタレム。

高ニ登リシテ人烟ヲ觀ル

租稅ヲ除ク三年

民ヲ以テ本ト為ス

刑措ク二十餘年

履中天皇ハ。仁德帝ノ長子ナリ。仁德帝崩ス。住吉仲皇子反シテ宮ヲ燒ク。天皇之ヲ河內ニ避ケ。皇弟瑞齒別ヲシテ之ヲ誅セシム○二年。正月。瑞齒別ヲ立テ、皇太子ト爲シ。平群木菟葛城圓等ヲシテ國政ヲ執ラシム○四年。八月。始メテ史官ヲ

仲皇子ヲ誅ス

史官ヲ置ク

諸國ニ置キ。言事ヲ記シテ。四方ノ志ヲ通セシム

○六年。正月。始メテ藏職ヲ置キ。藏部ヲ定ム○三月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

反正天皇ハ。履中帝ノ同母弟ナリ。○五年。正月。天皇崩ス。皇弟立ツ。

允恭天皇ハ。反正帝ノ同母弟ナリ○三年。正月。醫ヲ新羅ニ召ス。醫天皇ノ疾ヲ療シ。瘳ユルヲ得タリ。厚ク賞シ之ヲ遣ル○四年。九月。姓氏ヲ甄ニス。天皇姓氏紊亂スルヲ憂ヒ。群臣ヲ味橿丘ニ會シ。神ニ誓ヒ湯ヲ探ラシメ。以テ其詐冒ヲ正ス○四

醫ヲ新羅ニ召ス

姓氏ヲ甄ニス

十二年。正月。天皇崩ス。穴穂皇子立ツ。

安康天皇ハ。允恭帝ノ第三子ナリ。允恭帝崩ス。皇太子木梨輕暴虐ナリ。群臣心ヲ天皇ニ屬ス。木梨輕密ニ兵ヲ集メ。天皇ヲ襲ハント欲ス。既ニシテ事ノ成ラサルヲ度リ。物部大前ノ家ニ匿ル。天皇兵ヲ遣リテ之ヲ圍マシム。木梨輕自殺ス。天皇位ニ即ク○三年。八月。天皇暴ニ崩ス。初天皇皇弟大泊瀬ノ爲ニ。大草香皇子ノ妹ヲ聘セントシ。根使主ヲシテ旨ヲ諭サシム。大草香大ニ喜ヒ。押木珠縵ヲ獻シテ信ト為ス。使主之ヲ私シ。佯リテ大草

木梨輕暴虐

押木珠縵

大草香ヲ殺ス

香吉ヲ奉セスト奏ス。天皇怒リテ大草香ヲ殺シ。其妹幡梭媛ヲ取リテ大泊瀬ニ配シ。其妃中蒂姫ヲ納レテ。皇后ト爲ス。大草香子アリ。眉輪ト曰フ。皇后ニ從ヒテ。宮中ニ養ハル。是ニ至リ天皇山宮ニ幸ス。眉輪年七歳。天皇ノ醉臥ヲ伺ヒ。刺シテ之ヲ弑ス。大泊瀬變ヲ聞キテ馳セ至リ。諸兄ヲ疑ヒ之ヲ殺ス。眉輪大臣葛城圓ノ家ニ匿ル。圓ミテ之ヲ誅シ。併セテ皇太叔市邊押磐皇子ヲ殺シ。遂ニ位ニ即ク。

眉輪天皇ヲ弑ス

押磐皇子ヲ殺ス

雄畧天皇ハ。允恭帝ノ第五子ニシテ。安康帝ノ同母弟ナリ。○五年。二月。天皇葛城山ニ獵ス。皇后幡梭媛從フ。野猪突キ至ル。舍人ニ命シテ之ヲ射ラシム。舍人怖レ避ク。天皇蹈ミテ之ヲ殺シ。將ニ舍人ヲ斬ラントス。皇后諫メテ曰ク。獸ノ故ヲ以テ人ヲ殺サハ。豈豺狼ニ異ナランヤ。天皇欣然トシテ曰ク。獵者ハ禽ヲ獲。朕ハ獨善言ヲ獲タリト。舍人ヲ釋ス。○六年。三月。后妃ヲシテ躬桑トリ。以テ田狹反ス蠶事ヲ勸メシム。○七年。吉備田狹叛ス。初天皇田狹ヲ以テ任那國司ト爲シ。其妻ヲ納ル。田狹怨望シ。任那ニ據リテ叛ス。○八年。高麗新羅ト好ヲ通

葛城山ニ獵フ

皇后天皇ヲ諫ム

后妃躬桑トル

ス。新羅誤リテ其兵ヲ殺ス。高麗乃新羅ヲ擊ツ。新羅援ヲ日本府ニ請フ。府帥兵ヲ遣リ。大ニ高麗ノ兵ヲ破ル○九年。新羅久シク朝セス。紀小弓ヲ以テ大將軍ト為シ。新羅ヲ討タシメ。大ニ之ヲ破ル

樓閣ヲ起ス

○十二年。十月。始メテ樓閣ヲ起ス○十四年。四月。根使主ヲ誅ス

根使主ヲ誅ス。初吳人來聘シ。工女漢織吳織ヲ貢ス。天皇使主ヲシテ之ヲ饗セシム。皇后使主ノ押木珠縵ヲ見テ。涙下ル。天皇怪シ問ヒテ實ヲ得。乃使主ヲ鞫問シ之ヲ誅ス○十六年。七月。諸國ニ課シテ桑ヲ植エシム○二十二年。七月。豐受太神ヲ

桑ヲ諸國ニ植ウ

豐受太神ヲ遷シ祀ル

伊勢ノ山田ニ遷シ祀ル○八月。天皇崩ス。天皇峻刺殺ヲ嗜ム。然レトモ明果ニシテ能ク斷シ。晩ニ意ヲ政治ニ留メ。國家無事ナリ。皇太子立ツ。

臣連ヲ諸國ニ遣ル

清寧天皇ハ。雄畧帝ノ第三子ナリ。雄略帝崩ス。星川皇子不軌ヲ謀リ誅ニ伏ス○二年。九月。臣連ヲ諸國ニ遣リ。風俗ヲ巡省セシメ。詔シテ犬馬玩器ヲ獻スルヲ止ム○四年。正月。諸蕃ノ使ヲ朝堂ニ宴シ。物ヲ賜フ○八月。天皇親囚徒ヲ錄ス。蝦夷隼人並ニ內附ス○五年。正月。天皇崩ス。弘計王立ツ。

天皇囚徒ヲ錄ス

蝦夷隼人內附ス

顯宗天皇ハ。履中帝ノ孫ニシテ。市邊押磐皇子ノ

第二子ナリ。弘計王ト稱ス。初父王ノ害ニ遭フヤ。其兄億計王ト。難ヲ播磨ニ避ケ。縮見ノ屯倉首忍海部細目ノ家僮ト為ル。會播磨國司伊與來目部小楯。細目ノ家ニ宴ス。細目二王ヲシテ歌舞セシム。天皇歌ニ託シテ意ヲ示ス。小楯其天胤タルヲ知リ。驚キ拜シ。闕ニ詣リ之ヲ奏ス。時ニ清寧帝嗣ナキヲ憂フ。之ヲ聞キ大ニ喜ヒ。乃二王ヲ迎ヘ。億計王ヲ立テ、皇太子ト為シ。天皇ヲ皇子ト為ス。帝崩ス。皇太子位ヲ天皇ニ讓ル。天皇可カス。飯豐青皇女政ヲ聽ク。既ニシテ皇女薨ス。天皇乃位ニ

二王難ヲ播磨ニ避ク

二王ヲ迎フ

皇太子位ヲ讓ル

即ク。○元年。二月。詔シテ市邊押磐皇子ヲ改葬ス。○三年。四月。天皇崩ス。天皇久シク民間ニ在リ。百姓ノ疾苦ヲ知ル。故ニ賦斂ヲ薄クシ。孤寡ヲ恤ム。數年ナラスシテ。民富ミ年饒ニ。穀一斛。銀錢一文ナリ。皇太子立ツ。

仁賢天皇ハ。即億計王ナリ。○六年。九月。使ヲ高麗ニ遣リテ。工匠ヲ求メシム。○十一年。六月。天皇崩ス。天皇聰敏ニシテ仁恕ナリ。顯宗帝嘗テ雄略帝ノ陵ヲ發キ。父ノ仇ヲ報セント欲ス。天皇諫メテ之ヲ止ム。位ニ即クニ及ヒテ。吏其官ニ稱ヒ。民其

押磐皇子ヲ改葬ス

賦斂ヲ薄クシ孤寡ヲ恤ム

吏官ニ稱ヒ民業ニ

安ンス

業ニ安ンス。皇太子立ツ。

武烈天皇ハ。仁賢帝ノ子ナリ。仁賢帝崩ス。大臣平群真鳥政ヲ專ニシ。陰ニ不軌ヲ謀ル。其子鮪亦人臣ノ禮ナシ。天皇大連大伴金村ト謀リ。兵ヲ遣リ之ヲ併セ誅ス○八年。十二月。天皇崩ス。天皇殘忍殺ヲ嗜ム。然レトモ斷獄精審ニシテ。民情ヲ遁ルヽ能ハス。男大迹王立ツ。

真鳥父子ヲ誅ス

繼體天皇ハ。應神帝五世ノ孫ニシテ。彥主人王ノ子ナリ。幼ニシテ父ヲ喪ヒ。母ニ從ヒテ越前ニ在リ。既ニ長シテ大度アリ。武烈帝崩シテ。嗣ナシ。大

天皇越前ニ在リ

伴金村群臣ト議シ。天皇ヲ迎ヘテ位ニ卽カシム

農桑ヲ勸ム

○元年。三月。詔シテ農桑ヲ勸ム○七年。六月。百濟五經博士ヲ貢ス○二十一年。六月。新羅任那ヲ攻ム。近江毛野ヲシテ兵ヲ率ヰ任那ニ往キ新羅ノ侵ス所ノ故地ヲ復サシム。筑紫國造磐井新羅ト謀ヲ通シ。毛野ヲ拒ム。物部麤鹿火ヲ以テ大將軍ト爲シ之ヲ討タシム。明年。磐井ヲ誅シ。筑紫悉平ク○二十五年。二月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

五經博士來ル

磐井ヲ誅ス

安閑天皇ハ。繼體帝ノ庶長子ナリ○二年。五月。屯倉ヲ筑紫豐國火國播磨等十三國ニ置ク○十二

月。天皇崩ス。皇弟立ツ。

宣化天皇ハ。繼體帝ノ第二子ニシテ安閑帝ノ同母弟ナリ。○元年。五月。官家ヲ筑紫ニ造リ。諸國屯倉ノ穀ヲ輸ス。○二年。十月。新羅任那ニ寇ス。大伴金村ニ詔シ。其子狹手彦ヲ遣リ之ヲ援ケシム。○四年。二月。天皇崩ス。

官家ヲ筑紫ニ造ル

欽明天皇ハ。繼體帝ノ嫡子ナリ。○九年。正月。高麗百濟ヲ攻ム。兵ヲ遣リテ百濟ヲ援ケシメ漢城平壤ヲ復ス。○十三年。十月。百濟佛像經論ヲ獻ス。天皇之ヲ大臣蘇我稻目ニ賜フ。會、大ニ疫ス。大連物部尾輿大夫中臣鎌子奏シテ蕃神ヲ祀ルノ致ス所ト為シ。其像ヲ浪速堀江ニ投ス。○十四年。六月。百濟ニ命シ。醫ト曆博士ヲシテ遞番ニ來ラシム。○十五年。五月。內臣ヲ遣リ。百濟ヲ援ケシメ。新羅ヲ伐チテ函山城ヲ拔ク。○二十二年。新羅貢調ス。之ヲ百濟ノ下ニ班ス。使人怒リテ還ル。○二十三年。正月。新羅日本府ヲ滅ス。七月。大將軍紀男麻呂副將軍河邊瓊缶ヲ遣リテ。新羅ヲ討タシム。利アラス。○八月。大將軍大伴狹手彦ヲ遣リ。高麗ヲ伐タシメ大ニ之ヲ破リ。其都城ニ入リ。婦女珍寶ヲ

百濟佛像經論ヲ獻ス

佛像ヲ堀江ニ投ス　曆ト曆博士來ル

狹手彦高麗ノ都城ニ入ル

獲テ還ル○三十二年。四月。天皇崩ス。皇太子立ツ。

敏達天皇ハ。欽明帝ノ第二子ナリ○元年。四月。蘇我馬子ヲ以テ大臣ト爲シ。大連物部守屋ト共ニ政ヲ執ラシム。馬子ハ稲目ノ子。守屋ハ尾輿ノ子ナリ○十三年。葦北國造ノ子日羅ヲ召ス。日羅久シク百濟ニ在リ。善ク外事ヲ諳ンス。天皇之ヲ召シ。新羅ヲ伐ツノ策ヲ問フ。日羅曰ク。夷ヲ服スルノ道ハ。國本ヲ培養スルニ在リト因リテ其籌策ヲ陳ス。天皇之ヲ嘉納ス○十四年。二月大ニ疫ス。死スル者甚多シ。會蘇我馬子疾ノ為ニ佛ニ禱ラ

守屋馬子並ニ政ヲ執ル

日羅ヲ召ス

日羅策ヲ陳ス

馬子佛ニ禱ラント

ント請フ。物部守屋中臣勝海奏シテ曰ク。佛法行ハレテ。疾疫愈甚シ。請フ之ヲ禁斷セント。天皇乃馬子ニ勅シテ曰ク。汝獨之ヲ為セ。他人ヲ惑ハスヿ勿レト○八月。天皇崩ス。大兄皇子立ツ。

用明天皇ハ。欽明帝ノ第四子ナリ○三年。四月。磐余河上ニ新嘗ス。天皇病ヲ獲テ宮ニ還リ。因リテ佛ニ歸セント欲ス。物部守屋中臣勝海固ク其不可ヲ陳ス。蘇我馬子詔旨ヲ贊ケ。厩戸皇子ト謀リ。僧ヲ延キテ宮ニ入ル。是ニ於キテ。守屋馬子怨隙滋甚シ。馬子人ヲシテ勝海ヲ殺サシム○是月。天

天皇佛ニ歸ス

馬子勝海ヲ殺ス

皇崩ス。嗣ナシ。物部守屋竊ニ穴穂部皇子ヲ立テント欲ス。謀泄ル。馬子皇子ヲ弑シ。遂ニ厩戸皇子ト謀リ。守屋ヲ攻メテ之ヲ殺ス。是ヨリ復佛ヲ排スル者ナシ。炊屋姫皇后群臣ト議シ。皇弟泊瀬部ヲ迎ヘテ之ヲ立ツ。

馬子守屋ヲ殺ス

崇峻天皇ハ。欽明帝ノ第十二子ナリ。○二年。七月。使ヲ遣リテ東北ノ國境ヲ觀察セシム。○四年。上毛野久比吳ヨリ還リ。權衡ヲ獻ス。○五年。十一月。天皇暴ニ崩ス。初蘇我馬子專横日ニ甚シ。天皇深ク之ヲ疾ム。嘗テ野猪ヲ獻スル者アリ。天皇左右ニ謂ヒテ曰ク。何ノ日朕カ惡ム所ノ人ヲ斬ル。此猪ノ頭ヲ斷スルカ如クセント。馬子聞キテ懼レ。人ヲシテ天皇ヲ弑セシム。群臣議シテ。炊屋姫皇后ニ請ヒ。阼ヲ踐マシム

權衡ヲ獻ス

天皇暴ニ崩ス

推古天皇ハ。欽明帝ノ女ニシテ。敏達帝ノ皇后ナリ。○元年。四月。厩戸皇子ヲ立テ、皇太子ト為シ。萬機ヲ攝行セシム。○八年。二月。新羅任那ト戰フ。境部臣ヲ以テ大將軍ト為シ。新羅ヲ討タシメ。大ニ之ヲ破ル。○十年。十月。百濟曆天文地理遁甲方術等ノ書ヲ獻ス。○十一年。十二月。冠位十二階ヲ定ム

皇太子萬ヲ攝行ス

冠位十二階ヲ定ム

定ム。德仁禮信義智ト曰フ。各大小ヲ令ツ○十二年。正月。始メテ曆日ヲ用ウ○四月。皇太子憲法十七條ヲ定ム○十三年。四月。皇太子ニ詔シテ。銅鏞丈六ノ佛像ヲ造ラシム。高麗王之ヲ聞キ黃金ヲ獻ス○十五年。七月。大禮小野妹子ヲ隋ニ遣ル○十八年。三月。高麗僧曇徵ヲ貢ス。曇徵紙墨碾磑ヲ造ル○二十四年。掖玖ノ人來ル○二十八年。皇太子蘇我馬子ト。天皇記國記等ヲ撰フ○二十九年。二月皇太子薨ス。太子深ク佛法ヲ好ミ。寺塔ヲ建テ。僧尼ヲ度スル極メテ多シ○三十一年。七月。新羅復任那ヲ侵ス。大德境部雄麻呂ヲ以テ大將軍ト爲シ。新羅ヲ討タシム。新羅惶駭シテ罪ヲ謝ス○三十二年。四月。僧正僧都ヲ置キ。僧尼ヲ檢校セシム○三十四年。五月。蘇我馬子薨ス。其子蝦夷ヲ以テ大臣ト爲ス○三十六年。三月。天皇崩ス。田村皇子立ツ。

始メテ曆日ヲ用ウ

憲法ヲ定ム

使ヲ隋ニ遣ル

天皇記國記ヲ撰ス

太子佛法ヲ好ム

僧正僧都ヲ置ク

舒明天皇ハ。押坂彥人大兄皇子ノ子ニシテ。敏達帝ノ嫡孫ナリ○二年。八月。大仁犬上御田鍬等ヲ唐ニ遣ル○九年。蝦夷叛ス。大仁上毛野形名ヲ以テ將軍ト爲シ。討チテ之ヲ平ケシム○十二年。始

使ヲ唐ニ遣ル

斗升斤量ヲ定ム

メテ斗升斤量ヲ定ム○十三年。十月。天皇崩ス。皇后立ツ。

入鹿政ヲ専ニス

皇極天皇ハ。敏達帝ノ曾孫ニシテ。茅渟王ノ女ナリ。蘇我蝦夷大臣タル故ノ如シ。蝦夷ノ子入鹿暴戾ニシテ政ヲ専ニシ。威權父ニ過ク○二年。十一月。入鹿山背大兄王ヲ弑ス。初入鹿天皇ヲ廢シテ。古人大兄皇子ヲ立テント謀ル。皇子ハ蘇我氏ノ出ナリ。時ニ山背王威望アリ。入鹿之ヲ忌ミ。兵ヲ遣リテ之ヲ殺ス○四年。六月。三韓方物ヲ貢ス。天皇大極殿ニ御ス。中大兄皇子中臣鎌足蘇我倉山

入鹿大兄王ヲ弑ス

三韓方物ヲ貢ス

入鹿ヲ朝ニ誅ス

田石川麻呂等ト謀リ。入鹿ヲ朝ニ誅ス。天皇驚キテ故ヲ問フ。皇子入鹿ノ罪ヲ奏シ。即兵ヲ遣リテ蝦夷ヲ討タシム。蝦夷圖書珍寶ヲ焚キテ自殺ス○是月。天皇位ヲ輕皇子ニ傳フ。天皇位ヲ傳フル此ニ始マル。

天皇位ヲ傳フ

孝德天皇ハ。皇極帝ノ同母弟ナリ。中大兄皇子ヲ立テ、皇太子ト爲シ。政ヲ輔ケシム。始メテ左右大臣及内臣ヲ置ク。乃元ヲ紀シテ大化元年ト爲ス。年ニ號アル。此ニ始マル○元年。八月。鐘匱ヲ朝ニ設ケ。民ヲシテ寃枉ヲ告訴セシム○九月。古人

左右大臣内臣ヲ置ク

元ヲ紀ス

大兄皇子不軌ヲ圖リ。誅ニ伏ス○二年。正月。詔シテ臣連國造村首ヲ罷メ。京師ヲ修メ。畿内ノ界ヲ畫シ。國司郡司郡領ヲ置キ。班田收授ノ制ヲ定メ。租庸調ノ法ヲ行ヒ。兵馬ヲ出シ。采女ヲ貢スル等ノ制ヲ定ム。又兵庫ヲ郡國ニ造ル○三年。七色十三階冠ヲ制ス○四年。磐舟柵ヲ修メ。蝦夷ニ備フ。越信濃ノ民ヲ選ヒ。柵戸ヲ置ク○五年。二月。改メテ冠十九階ヲ制シ。八省百官ヲ置ク○三月。右大臣蘇我倉山田石川麻呂其弟日向ノ讒スル所ト為リテ自殺ス。既ニシテ天皇其寃ヲ悟リ。日向ヲ

田制ヲ定メ租庸調ノ法ヲ行フ

七色十三階冠ヲ制ス

冠十九階ヲ制シ八省百官ヲ置ク

戸籍ヲ造ル

貶シテ。筑紫太宰帥ト為ス○白雉三年。四月。戸籍ヲ造ル。五家相保シ。長ヲ置キテ之ヲ檢察セシム○五年。十月。天皇崩ス。在位十年。天皇儒ヲ崇ビ。意ヲ治道ニ用ヰ。制度大ニ定マル。

齊明天皇ハ皇極帝ノ重祚ナリ。中大兄皇子仍皇太子タリ○四年。四月。越守阿倍比羅夫舟師ヲ率ヰ。蝦夷ヲ伐チテ之ヲ降シ。郡領ヲ渟代津輕二郡ニ置キテ還ル○十一月。有間皇子不軌ヲ圖リテ。誅ニ伏ス○是歳。阿倍比羅夫肅慎ヲ伐ツ○五年。三月。比羅夫復蝦夷ヲ伐チ之ヲ降シ。郡領ヲ後方羊蹄ニ

比羅夫蝦夷ヲ伐ツ

郡領ヲ渟代津輕ニ置ク

郡領ヲ後方羊蹄ニ

置ク

比羅夫俘虜ヲ獻ス

羊蹄ニ置キテ還ル○六年。三月。比羅夫舟師ヲ率ヰテ。復肅愼ヲ伐チ。五月。俘虜ヲ獻ス○十二月。是ヨリ先。新羅唐兵ヲ借リテ百濟ヲ滅ス。百濟ノ臣佐平鬼室福信恢復ヲ謀リ。唐俘ヲ獻シテ援ヲ請フ。是ニ至リ。天皇將ニ新羅ヲ討タントシ。難波宮ニ幸シ。駿河ニ敕シテ船ヲ造ラシム○七年。正月。天皇西征ス

天皇舟師ヲ帥ヰテ西征シ。筑紫ニ至ル○七月。天皇朝倉宮ニ崩ス。在位七年。皇太子立ツ。

素服制ヲ稱ス

天智天皇ハ。舒明帝ノ嫡子ニシテ。齊明帝ノ生ム所ナリ。齊明帝崩ス。天皇素服シテ制ヲ稱ス○八月。前將軍阿曇比羅夫等ヲ遣リテ。百濟王ノ子餘豐ヲ護送セシム○癸亥歲。三月。前將軍上毛野稚子等ヲ遣リ百濟ヲ援ケ。新羅ヲ伐タシム。八月。唐兵ト白村江ニ戰フ。利アラス。諸軍引キ還ル○甲子歲。二月。大海人皇子ニ命シ。冠位ヲ改增シ。二十六階ト爲ス○是歲。防烽ヲ對馬壹岐等ニ置キ。水城ヲ筑紫ニ築ク○丙寅歲。十月。百濟ノ民二千餘口ヲ東國ニ分チ處ラシム。僧智由指南車ヲ獻ス○丁卯歲。三月。天皇近江ノ大津宮ニ遷ル○元年。正月。天皇位ニ卽ク○七月。武ヲ近江ニ講シ。牧場

冠位ヲ改增ス

指南車ヲ獻ス

武ヲ近江ニ講ス

燃土燃水ヲ獻ス

ヲ置キ馬ヲ放ツ。越國燃土燃水ヲ獻ス○二年。十月。内臣中臣鎌足薨ス。鎌足忠誠ニシテ器畧アリ。大難ヲ定メ。制度ヲ建ツ。天皇親臨シテ。其病ヲ問

藤原姓ヲ賜フ

ヒ。姓藤原ヲ賜ヒ。大織冠ヲ授ケ。内大臣ト為ス。薨スルニ及ヒテ。賻ヲ賜フ甚厚シ○三年。二月。重ネテ戶籍ヲ造リ。盜賊浮浪ヲ糺斷セシム○是歲。水碓ヲ造リ鐵ヲ冶ス○四年。正月。大友皇子ヲ以テ

太政大臣ヲ置ク

太政大臣ト為シ。蘇我果安等ヲ御史大夫ト為ス。太政大臣御史大夫ヲ置ク。此ニ始マル○四月。漏

漏ヲ置キ時ヲ警ム

刻ヲ新臺ニ置キ。鐘鼓ヲ擊チテ時ヲ警ム○十月。天皇病篤シ。大海人皇子ヲ召シ。屬スルニ後事ヲ以テス。皇子固辭シテ僧ト為リ。吉野ニ入ル。乃大友皇子ヲ立テ、皇太子ト為ス○十二月。天皇崩ス。在位四年。天皇學ヲ好ミ文ヲ能クシ。學校ヲ興シ。典禮ヲ制シ。大ニ郡縣ノ制ヲ定ム。故ニ天皇ヲ稱シテ中興ノ祖ト為ス。皇太子立ツ。

大海人吉野ニ入ル

學校ヲ興シ典禮ヲ制ス

大海人兵ヲ稱ク

弘文天皇ハ。天智帝ノ長子ナリ○元年。六月。大海人皇子兵ヲ吉野ニ稱ク。時ニ高坂王倭京ニ留守ス。皇子使ヲ遣リテ驛鈴ヲ乞フ。與ヘス。皇子美濃ニ走リ。兵ヲ留メ鈴鹿道ヲ塞キ村國男依等ヲシ

テ不破道ヲ塞カシム。大伴吹負兵ヲ倭ニ起シ。皇子ニ應ス。高坂王亦之ニ降ル。京師震駭ス。天皇諸道ノ兵ヲ徵ス。應スル者ナシ。皇子兵ヲ分チテ二軍ト為シ。並ニ京師ニ向フ。天皇壹岐韓國蘇我果安等ヲシテ近江河内ニ禦カシム。連戰皆敗ル。皇子進ミテ瀨田ニ薄ル。天皇餘衆ヲ悉シテ橋西ニ軍ス。戰利アラス。先鋒智尊之ニ死ス。全軍敗ル。天皇終ニ長柄山前ニ崩ス。在位九月。大海人皇子立ツ。

京師震駭ス

大海人瀨田ニ薄ル

不破關ヲ置ク

天武天皇ハ。天智帝ノ同母弟ナリ○元年。七月。不破關ヲ置ク○二年。三月。對馬白金ヲ貢ス。銀錢ヲ鑄ル○三年。正月。占星臺ヲ建ツ○四月。百姓ノ貧富ヲ定メ三等ト為ス○六年。十月。詔シテ文武官考績進階ノ制ヲ定ム。

對馬白金ヲ貢ス

考績進階ノ制ヲ定ム

詔シテ。軍馬ヲ畜ハシム○十一月。龍田山大江山ノ二關ヲ置キ羅城ヲ難波ニ築ク○九年。二月。詔シテ律令ヲ定ム○三月。川島皇子忍壁皇子等ニ詔シテ。帝紀及上古ノ事蹟ヲ撰述セシム○四月。禁式九十二條ヲ設ケ。親王ヨリ庶人ニ至ルマテ。服色ノ制度ヲ定ム○十年。三月。境部石積等ニ勅

律令ヲ定ム

帝紀及上古ノ事ヲ撰フ

シテ。新字四十四卷ヲ造ラシム○四月。男女ヲシテ。悉髪ヲ結ハシム○九月。敕シテ跪禮匍匐禮ヲ停メ。更ニ難波朝廷ノ立禮ヲ用ヰシム○十一年。十二月。使ヲ遣リ。諸國ノ疆域ヲ定メシム○十二年。閏四月。百僚ニ勅シテ。進止ノ威儀ヲ肄ヒ。文武百官ニ詔シテ。皆軍事ヲ習ハシム○十月。諸氏ノ族姓ヲ改メテ八等ト為ス○十三年。九月。使ヲ諸國ニ遣リ。國司郡司ノ治狀ヲ察シ。民ノ疾苦ヲ問ハシム○朱鳥元年。七月。諸國ニ勅シテ。男子脛裳ヲ着ケ。女子髪ヲ背ニ垂ル、並ニ故ノ如クセシ

男女ヲシテ結髪セシム

諸國ノ疆域ヲ定ム

國司郡司ノ治狀ヲ察ス

ム○九月。天皇崩ス。在位十四年。皇后立ツ。持統天皇ハ。天智帝ノ第二女ナリ。天武帝崩ス。大津皇子不軌ヲ圖リ。誅ニ伏ス。天皇皇太子草壁ヲ奉シ。朝ニ臨ミ制ヲ稱スル三年。皇太子薨ス。乃即位ス○四年。十一月。始メテ元嘉曆儀鳳曆ヲ行フ○五年。正月。親王諸臣内親王女王内命婦ニ位ヲ授ク。婦女ノ位ニ叙スル。此ニ始マル○六年。三月。天皇伊勢ニ幸ス。中納言三輪高市麻呂闕ニ詣リ上表シ。東作ニ當リ遠幸スルヲ諫ム。聽カス○七年。三月。桑苧梨栗蕪菁ヲ植ウルコトヲ勸ム○八、

兩曆ヲ行フ

婦女ニ位ヲ授ク

高市麻呂極諫ス

年。三月。鑄錢司ヲ置ク○十一年。八月。天皇位ヲ皇太子ニ傳ヘ。太上天皇ト稱ス。太上天皇此ニ始マル。在位八年。皇太子立ツ。

鑄錢司ヲ置ク

太上天皇此ニ始マル

文武天皇ハ。天武帝ノ孫。草壁皇子ノ子。母ハ阿閉皇女ナリ○二年。七月。笞法ヲ制シ。博戲游手ノ徒ヲ禁ス○是歲。因幡周芳銅鑛ヲ獻シ。伊豫伊勢白鑞ヲ獻ス。對馬ヲシテ金鑛ヲ冶セシム○三年。七月。多禰掖玖菴美度感諸島並ニ來貢ス。世ニ之ヲ南島ト稱ス○四年。二月。越後佐渡ヲシテ磐舟柵ヲ修メシム○三月。諸國ノ牧地ヲ定メ。牛馬ヲ放タシム○六月。淨大參忍壁親王直廣壹藤原不比等ニ敕シ。重ネテ律令ヲ撰定セシム。不比等ハ鎌足ノ子ナリ○大寶元年。二月。始メテ先聖ニ釋奠ス。唐制ヲ參酌シテ。學校ノ制ヲ定メ。京師ニ大學ヲ建テ。諸國ニ國學ヲ設ケ。並ニ博士ヲ置キ。子弟ヲ教育セシム○三月。官名位號ヲ改メ。位冠ヲ停メテ位記ヲ授ク○二年。二月。新律ヲ頒ツ○三月。度量ヲ頒ツ○十二月。岐蘇山道ヲ闢ク○是月。上皇崩ス○三年。正月。使ヲ七道ニ遣リ。政績ヲ巡省シ。寃枉ヲ申理セシム○慶雲三年。九月。使ヲ七道

笞法ヲ制ス

銅鑛白鑞ヲ獻ス

南島來貢ス

諸國ノ牧地ヲ定ム

重ネテ律令ヲ撰ム

大學國學ヲ設ク

岐蘇山道ヲ闢ク

田租ノ法ヲ定ム

ニ遣リ。田租ノ法ヲ定ム○四年。六月。天皇崩ス。天皇天資寛仁ニシテ。博ク經史ニ渉リ。律令ヲ定メ。朝儀ヲ制シ。文物典章大ニ備ハル。在位十一年。阿閉皇女立ツ。

元明天皇ハ。天智帝ノ第四女ナリ○和銅元年。正月。武藏銅ヲ獻ス○二月。始メテ催鑄錢司ヲ置ク○八月始メテ銅錢ヲ行フ○二年。三月。陸奥越後ノ蝦夷叛ス。左大辨巨勢麻呂ヲ以テ鎮東將軍ト爲シ。討チテ之ヲ平ク○三年。二月。守山戸ヲ置キ。都ヲ平城ニ奠メ。左右京木ヲ伐ルヲ禁ス○三月。都ヲ平城ニ奠メ。左右京

武藏銅ヲ獻ス

銅錢ヲ行フ

守山戸ヲ置ク

都ヲ平城ニ奠ル

都亭驛ヲ置ク

坊ヲ置ク○四年。正月。都亭驛ヲ置ク○閏六月。挑文師ヲ諸國ニ遣リ。錦綾ヲ織ルヲ教フ○五年。正月。正五位上太安麻呂古事記ヲ上ル○九月。陸奥十二郡ヲ割キ。出羽國ヲ置ク○是歲。應神帝ヲ豐前ノ宇佐郡ニ祀リ。號シテ八幡太神ト曰フ○六年。四月。丹波五郡ヲ割キ。丹後國ヲ置キ。備前六郡ヲ割キ。美作國ヲ置キ。日向四郡ヲ割キ。大隅國ヲ置ク○五月。諸國ニ詔シテ風土記ヲ撰シ。郡鄕ノ名。雅馴ノ字ヲ用ヰシム○八年。九月。天皇位ヲ氷高内親王ニ傳フ。在位八年。氷高内親王立ツ。

古事記ヲ上ル

風土記ヲ撰フ

麥禾雜穀ヲ種エレム

元正天皇ハ。文武帝ノ姊ナリ○靈龜元年。十月。詔レテ陸田ヲ兼ネ耕シ、麥禾雜穀ヲ種エレム○二年。四月。河内三郡ヲ割キテ。和泉監ヲ置ク○從四位下多治比縣守ヲ以テ遣唐使ト為ス下道眞備阿部仲麻呂等之ニ隨ヒテ留學ス○養老元年。四月。調庸斤兩長短ノ法ヲ定ム。九月。天皇美濃ニ幸シ。醴泉ヲ觀ル○二年。四月。筑後守道首名卒ス。首名治績多シ首名耕種ヲ教督シ。馬牛ヲ牧飼ス。民其利ヲ蒙ル。卒スルニ及ヒテ。部内之ヲ祀ル○五月。越前四郡ヲ割キ能登國ヲ置キ。上總四郡ヲ割キ。安房國ヲ

調庸斤兩ヲ定ム

首名治績多シ

置キ。陸奥十一郡ヲ割キ。六郡ヲ以テ石城國ト為シ。五郡ヲ石背國ト為ス○三年。二月。始メテ百姓ヲシテ衽ヲ右ニセシム○七月。按察使ヲ置キ諸國ヲ巡省セシム○十二月。始メテ婦女ノ服制ヲ定ム○四年。正月。渡島津輕津司ヲ遣リテ。靺鞨ノ風俗ヲ觀セシム○五月。一品舍人親王日本紀ヲ上ル○九月。蝦夷反シ。按察使上毛野廣人ヲ殺ス。乃播磨按察使丹治比縣守ヲ以テ持節征夷將軍ト為シ。討チテ之ヲ平ク○五年。十二月。上皇崩ス。使ヲ遣リテ三關ヲ守ラシム。後世大葬必三關ヲ

衽ヲ右ニセシム

靺鞨ノ風俗ヲ觀セシム

日本紀ヲ上ル

固ムル。此ニ始マル○八年。二月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位九年。皇太子立ツ。

聖武天皇ハ。文武帝ノ子ニシテ。母ハ右大臣不比等ノ第一女ナリ○神龜元年。三月。陸奥ノ蝦夷反ス。大掾佐伯兒屋麻呂ヲ殺ス。式部卿藤原宇合ヲ以テ持節大將軍ト為シ。討テテ之ヲ平ク○十一月。京師ノ士民ヲシテ。瓦屋ヲ葺キ。塗ルニ丹堊ヲ以テセシム○是歲陸奥鎮守將軍大野東人建議シテ多賀城ヲ築キ。以テ蝦夷ニ備フ○二年。始メテ陸奥鎮守府ヲ置ク○三年。六月。醫藥ヲ京畿諸國ニ給ス○五年。正月。勃海使ヲ遣シテ方物ヲ獻ス。勃海始メテ通ス○天平三年。十一月。畿內總管諸道鎮撫使ヲ置ク○四年。五月。新羅使來リ。朝貢年期ヲ請フ。詔シテ三年ニ一タヒ貢セシム○九年。三月。國分寺ヲ諸國ニ置ク○十年。八月。諸國ニ令シテ。國郡ノ圖ヲ上ラシム○十二年。八月。和泉監ヲ省キ河內國ニ併ス○九月。太宰少貳藤原廣嗣反ス。大野東人ヲ以テ大將軍ト為シ。之ヲ討ツ。初僧玄昉皇后ニ寵アリ。內道場ニ入ル。皇后亮吉備眞備敢テ言ハス。廣嗣時ニ大和守タリ。玄昉ヲ

蝦夷反ス

多賀城ヲ築ク

陸奥鎮守府ヲ置ク

醫藥ヲ給フ

勃海方物ヲ獻ス

國分寺ヲ置ク

國郡ノ圖ヲ上ラシム

廣嗣反ス

廣嗣ノ妻姿色アリ

効奏レ。之ヲ斥ケント請フ。聽カス。出シテ太宰少貳ト爲ス。廣嗣ノ妻姿色アリ。留リテ京師ニ在リ。玄昉之ニ通セント欲ス妻書ヲ以テ之ヲ告ク。廣嗣憤リニ堪ヘス。是ニ至リ兵ヲ擧ケ。玄昉眞備ヲ除カント請フ。朝議東人等ヲ遣リ之ヲ討タシム。廣嗣之ヲ板櫃川ニ拒ク。衆潰エ。肥前ニ走ル。官軍捕ヘテ之ヲ誅ス○十五年。十月。東大寺ヲ建テ。金

盧舍那佛ヲ造ル

銅盧舍那佛ヲ造ル。高五丈○十七年。十一月。僧玄昉ヲ筑紫ニ配シ。造觀音寺使ト為ス○二十年。四

陸奥黃金ヲ貢ス

月。上皇崩ス○天平感寶元年。二月。陸奥黃金ヲ貢ス○七月。天皇位ヲ皇太子ニ傳ヘ。髮ヲ削リテ佛

三寶奴ト稱ス

ニ歸シ。自ラ三寶奴ト稱ス。在位二十五年。皇太子立ツ。

孝謙天皇ハ。聖武帝ノ女ニシテ。母ハ右大臣不比等ノ第三女ナリ○天平勝寶元年。八月。紫微中臺ヲ置キ。尋キテ大納言藤原仲麻呂ヲ以テ紫微令ヲ兼ネシム。仲麻呂寵幸ヲ恃ミテ。頗威權ヲ擅ニス○七歳。正月。年ヲ改メテ歳ト為ス○八歳五月。上皇崩ス○天平寶字元歳。三月。皇太子道祖ヲ廢ス○四月。大炊王ヲ立テ、皇太子ト為ス。太子仲

紫微中臺ヲ置ク

年ヲ改メテ歳ト為ス

麻呂ノ女寡居スル者ヲ納レテ妃ト為ス。故ニ仲麻呂天皇ニ勸メニ儲貳ト為ス○七月。左大辨橘奈良麻呂大伴古麻呂等。仲麻呂ノ專恣ヲ惡ミ。之ヲ誅シ廢立ヲ謀ラント欲ス。事覺ル。捕ヘテ杖殺ス。黨與罪ヲ得ル者多シ○八月。歳ヲ改メテ年ニ復ス○二年。八月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十年。皇太子立ツ。

（奈良麻呂等廢立ヲ謀ル）

（仲麻呂ニ命シテ官制ヲ改メシム）

淳仁天皇ハ。天武帝ノ孫ニシテ。舍人親王ノ第七子ナリ○二年。八月。紫微内相藤原仲麻呂ニ命シテ。官制ヲ改易セシム○十月。詔シテ國司交替ノ期。四年ヲ改メテ六年ト為シ。三年毎ニ巡察使ヲ遣リテ。治績ヲ檢セシム○十二月。太宰府ニ勅シテ。海防ヲ嚴ニセシム。唐ニ安祿山ノ亂アルヲ以テナリ○三年。五月。諸國ニ常平倉ヲ置カシム。東海東山北陸三道ハ。左平準署之ヲ掌リ。山陰山陽南海西海四道ハ。右平準署之ヲ掌ル○五年。十月。天皇上皇ヲ奉シテ。近江ノ保良宮ニ幸ス。僧道鏡。從フ。尋キテ太師惠美押勝ノ第ニ幸ス。押勝ハ卽仲麻呂ナリ○七年。八月。儀鳳曆ヲ廢シテ。大衍曆ヲ行フ○九月。道鏡ヲ以テ少僧都ト為ス○八年。

（國司交替ノ期ヲ改ム）

（常平倉ヲ置ク）

（大衍曆ヲ行フ）

押勝反ス

九月。惠美押勝反ス。是ヨリ先。道鏡上皇ニ寵アリ。押勝稍疎外セラレ。意自安ンセス。乃陰ニ道鏡ヲ除カンコトヲ謀リ。自請ヒテ近畿都督ト為リ。官符ヲ發シテ兵ヲ徵ス。大外記高丘比良麻呂變ヲ上ル。上皇兵ヲ遣リ之ヲ討ツ。押勝近江ニ走リ。精兵ヲ遣リ。愛發關ヲ扼ス。官軍擊チテ之ヲ破リ。遂ニ押勝ヲ斬ル○十月。上皇天皇ヲ廢シテ。淡路公ト為シ。淡路ニ遷ス。其押勝ニ黨スルヲ疑ヒテナリ。尋キテ崩ス。在位六年。

上皇天皇ヲ廢ス

稱德天皇ハ。孝謙帝ノ重祚ナリ○天平神護元年。

私ニ兵器ヲ貯フルヲ禁ス

三月。王臣私ニ兵器ヲ貯フルヲ禁ス○八月。參議兵部卿和氣王反ヲ謀リテ誅ニ伏ス○閏十月。僧道鏡ヲ以テ。太政大臣禪師ト為ス○二年。十月。道鏡ニ法王位ヲ授ケ。輿服供御ニ擬セシム○神護景雲元年。二月。天皇大學ニ臨ミテ釋奠ス。是ヨリ先。釋奠ノ儀未備ハラス。右大臣吉備眞備唐禮ニ據リテ。儀注ヲ定ム。禮文大ニ備ハル○三年。正月。道鏡ヲシテ大臣以下ノ拜賀ヲ受ケシム○八月。從五位下和氣清麻呂ヲ流ス。初太宰主神習宜阿曾麻呂道鏡ニ諂ヒ。宇佐八幡ノ神教ヲ矯メテ曰

道鏡ヲ太政大臣禪師ト為ス

法王位ヲ授ク

阿曾麻呂道鏡ニ諂フ

清麻呂復命ス

ク。道鏡ヲシテ位ニ即カシメハ。天下太平ナラン
ト。天皇之ニ惑ヒ。清麻呂ヲシテ更ニ神教ヲ請ハ
シム。道鏡清麻呂ヲ召シ。怵スニ禍福ヲ以テス。清
麻呂復命シテ曰ク。太神憑語ス。我國君臣ノ分定
マレリ。敢テ非望ヲ懷ク者ハ。速ニ誅セヨト。道鏡
大ニ怒リ。之ヲ大隅ニ流ス○四年。八月。天皇崩ス。

清麻呂ヲ大隅ニ流ス

在位十年。天皇深ク佛法ヲ崇ヒ。數東大寺ニ幸シ。
僧ヲ集メ齋ヲ設ク。驕ヲ窮メ慾ヲ逞クシ。列聖豐
富ノ業衰フ。右大辨藤原百川群臣ト策ヲ定メ。白
璧王ヲ迎ヘテ之ヲ立ツ。

光仁天皇ハ。天智帝ノ孫ニシテ。施基皇子ノ第六
子ナリ○寶龜元年。八月。道鏡ヲ貶シテ。造下野藥
師寺別當ト為シ。習宜阿曾麻呂ヲ貶シテ。多褥島
守ト為シ。和氣清麻呂ヲ召シ還シ。本位ニ復ス○
十月。天皇位ニ即ク○三年。正月。勃海來貢ス。表文
無禮ナルヲ以テ之ヲ卻ク○三月。皇后井上内親
王巫蠱ニ坐シテ廢セラル。并セテ皇太子ヲ廢ス
○四年。正月。山部親王ヲ立テ、皇太子ト為ス○
五年。七月。蝦夷邊ヲ侵ス。鎮守府將軍大伴駿河麻
呂ニ敕シ。討チテ之ヲ平ク○六年。十月。天皇降誕

道鏡ヲ貶ス

清麻呂ヲ召シ還ス

蝦夷邊ヲ侵ス

天長節ヲ立ツ

陸奥大領反ス

ノ日ヲ立テ。天長節ト為ス○十一年。三月。陸奥上治郡大領伊治呰麻呂反シテ。按察使紀廣純ヲ殺ス。蝦夷大ニ亂ル。中納言藤原繼繩等ヲ以テ征東大使ト為シ之ヲ討タシム。利アラス。九月。藤原小黒麻呂ヲ以テ持節征東大使ト為シ。軍ヲ進メテ蝦夷ヲ討チ。之ヲ平ケシム○天應元年。四月。天皇位ヲ皇太子ニ傳ヘ。十二月崩ス。在位十二年。天皇政ヲ為ス。大綱ヲ擧ケ。苛察ヲ事トセス。寶龜ノ間

四海晏如タリ

四海晏如タリ。皇太子立ツ。桓武天皇ハ。光仁帝ノ長子ナリ○元年。四月。皇弟

御諱ヲ避ケシム

早良親王ヲ立テ、皇太子ト為ス○六月。文武ノ貢外官ヲ罷ム○延曆四年。五月。始メテ御諱ヲ避ケシム○六月。京畿七道ニ勅シテ。戶口ヲ括シ。浮浪ヲ勘セシム○九月。盜アリ中納言藤原種繼ヲ射殺ス。搜索シテ左少辨大伴繼人ヲ獲タリ。事皇太子ニ連ル。乃廢シテ淡路ニ流シ。繼人ヲ誅ス○十一月。皇子安殿親王ヲ立テ、皇太子ト為ス○

最澄根本中堂ヲ創ス

七年。僧最澄根本中堂ヲ比江山ニ創ス。後延曆寺ト號ス。最澄唐ニ學ヒ。博ク經論ニ通シ。台教ヲ傳フ○八年。正月。大學寮ニ勅ス。諸生年三十ニ滿タ

サレハ。任用スルヲ得ストヽ。三月。阪東諸國ノ兵ヲ多賀城ニ會シ。道ヲ分チテ蝦夷ヲ征ス。七月。鈴鹿不破愛發三關ヲ廢ス。十一年。閏十一月。明經ノ徒ニ勅シテ。漢音ヲ習熟セシメ。吳音ヲ習フヲ禁ス。十三年。十一月。勸學田ヲ置ク。是ヨリ先。田二十町ヲ以テ大學寮ニ給ス。是ニ至リ越前ノ水田一百二町ヲ增置シテ。勸學田ト名ク。是月。都ヲ山背ニ遷シ。號シテ平安城ト曰ヒ。山背ヲ改メテ山城ト稱ス。十五年。三月。諸國ニ敕シテ。武技衆ニ超ユル者ヲ舉ケシム。十六年。二月。皇太子學士菅野真道續日本紀ヲ上ル。初右大臣藤原繼繩國史ヲ撰フ。真道勅ヲ奉シテ之ヲ重修ス。是ニ至リテ成ル。十八年。七月。天竺ノ人綿種ヲ傳フ。南海諸國ノ民ニ須チテ之ヲ植エシム。十九年。二月。民ノ錢ヲ輸シテ爵ヲ求ムルヲ禁ス。二十年。九月。征夷大將軍坂上田村麻呂蝦夷ヲ討チテ之ヲ平ク。二十一年。正月。田村麻呂陸奥ノ膽澤城ヲ築キ。尋キテ志波城ヲ築キ。蝦夷ヲ鎮壓ス。二十四年。十二月。群臣ヲ召シテ。政事ノ得失ヲ議セシム。參議藤原緒嗣言フ。方今ノ患ハ。兵ト土

三關ヲ廢ス

勸學田ヲ置ク

都ヲ山背ニ遷ス

續日本紀ヲ上ル

綿種ヲ南海ニ領ツ

田村麻呂蝦夷ヲ平ク

緒嗣政事ノ得失ヲ言フ

木トニ在リ。請フ二者ヲ罷メテ。民力ヲ舒ヘシト。天皇之ヲ嘉納ス。緒嗣ハ百川ノ子ナリ○二十五年。三月。天皇崩ス。天皇天資英邁ニシテ。心ヲ政治ニ留メ。賢ニ任シ能ヲ用ウ賢ニ任シ能ヲ用ヰ。大ニ蝦夷ヲ討チ。永ク邊圉ヲ綏ンス。後世之ニ賴ル。在位二十四年。皇太子立ツ。

平城天皇ハ。桓武帝ノ長子ナリ○大同元年。五月。六道觀察使ヲ置ク六道觀察使ヲ置ク○六月。諸王及五位以上ノ子弟。十歲以上ノ者。皆大學ニ入ラシム○二年。正月。桑漆ヲ植ウルヲ勸百姓ニ勸メテ桑漆ヲ植ヱシム○九月。巫覡ノ徒ヲ禁ス○五月。諸國ノ采女ヲ貢スルヲ停ム○十二月。皇弟伊豫親王ヲ殺ス伊豫親王ヲ殺ス。初藤原宗成親王ニ勸メテ不軌ヲ圖ル。親王從ハス。事覺ルヽニ及ヒテ。親王ヲ誣ヒテ首謀ト為ス。乃之ヲ河原寺ニ幽シ。宗成ヲ流ス。親王藥ヲ仰キテ死ス○三年。五月。是ヨリ先。衛門佐安倍真直侍醫出雲廣目等ニ勅シテ。大同類聚方ヲ撰ハシム大同類聚方ヲ撰フ。是ニ至リテ成ル○四年。四月。天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。在位四年。皇太弟立ツ。

嵯峨天皇ハ。平城帝ノ同母弟ナリ。○弘仁元年。正

上皇平城ニ遷ル

月。上皇平城宮ニ遷ル。是ヨリ先。上皇右兵衛督藤原仲成ヲ遣リテ。宮ヲ平城ニ造ラシム。是ニ至リ遷リ御ス。○九月。仲成ヲ誅ス。初仲成ノ妹尚侍藥子上皇ニ寵アリ。言フ所聽カサルナシ。是ニ至リ仲成ト謀リ。上皇ヲシテ復阼セシメ。已后位ニ居ラント欲シ。旨ヲ矯メ。將ニ都ヲ平城ニ遷サントス。人心騷然タリ。天皇藥子仲成ノ罪ヲ暴ス。上皇怒リテ兵ヲ徵シ。藥子ト東國ニ幸ス。左馬頭藤原真雄駕ヲ遮リテ諫ム。聽カス。天皇仲成ヲ收ヘテ之ヲ誅シ。大納言坂上田村麻呂參議文屋綿麻呂

仲成ヲ誅ス

上皇東國ニ幸ス

ヲシテ諸路ヲ扼セシム。上皇進ムヲ得ス。宮ニ還リ薙髮ス。藥子藥ヲ仰キテ死ス。○二年。四月。蝦夷反ス。文屋綿麻呂ヲ以テ征夷將軍ト為シ。大伴今人ヲ副將軍ト為シ。討チテ之ヲ平ケシム。今人嘗テ出羽守タリ。大渠ヲ開ク。民役ヲ苦ミテ怨讟ス。成ルニ及ヒテ。皆其利ヲ蒙ル。呼ヒテ伴渠ト曰フ。○五月。坂上田村麻呂薨ス。田村麻呂勇畧人ニ超エ。將帥ノ量アリ。數功ヲ邊陲ニ建ツ。薨スルニ及ヒ。天皇深クヲ之ヲ悼惜ス。○六年。六月。畿内及近江丹波播磨諸國ヲシテ茶ヲ植エ。毎年之ヲ獻セシム

今人大渠ヲ開ク

田村麻呂薨ス

諸國ニ茶ヲ植エシム

弘仁格ヲ上ル

ム○十月。婦人ノ服飾乘車ノ制ヲ定ム○七年。僧空海金剛峯寺ヲ高野山ニ創ス。空海深ク佛理ニ通シ。嘗テ唐ニ如キ。諸名士ト交リ。歸リテ密教ヲ傳フ○九年。二月。朝會拜跪及常服ノ制。男女ヲ論セス。一ニ唐儀ニ準セシム○十一年。四月。大納言藤原冬嗣弘仁格ヲ上ル○十四年。三月。越前二郡ヲ割キ。加賀國ヲ置ク○四月。天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。天皇聰敏ニシテ。善ク文ヲ屬シ。草隸ニ妙ナリ。在位十五年。皇太弟立ツ。

淳和天皇ハ。嵯峨帝ノ弟ナリ○天長元年。七月。平城上皇崩ス○八月。中納言良岑安世奏シテ守介ノ任ヲ重クセント請フ。天皇之ヲ嘉納ス。安世ハ桓武帝ノ子ニシテ。文藻アリ。嘗テ勅ヲ奉シ經國集ヲ撰フ○二年。八月。畿内七道巡察使ヲ置ク○是月。大學ノ諸生ヲ紫宸殿ニ召シ。經史ヲ講論セシム○三年。九月。上總常陸上野三國守ヲ改メテ太守ト稱シ。親王ヲシテ遥領セシム○四年。藤原高房ヲ以テ美濃介ト爲ス。高房威惠兼ネ施シ。境ニ盜賊ナシ。三河守藤原吉野ト並ニ循吏ノ稱アリ○五年。正月。畿内班田使ヲ置ク○六年。五月。諸

巡察使ヲ置ク

畿内班田使ヲ置ク

水車ヲ造リ灌漑ニ便ス

國ニ勅シテ水車ヲ造リ。灌漑ニ便セシム○十年。二月。右大臣清原夏野令義解ヲ上ル。初藤原不比等等令ヲ作ル。傳歴已ニ久シ。學者互ニ異同ヲ作ス。乃夏野ニ詔シ。其義ヲ疏釋セシム。是ニ至リテ之ヲ上ル○是月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十一年。皇太子立ツ。

令義解ヲ上ル

仁明天皇ハ。嵯峨帝ノ第二子ナリ。淳和上皇ノ子恒貞ヲ立テ、皇太子ト爲ス。上皇固辭スレトモ。聽カス○承和元年。二月。金銀薄泥ヲ用ウルヲ禁ス○二年。九月。島木史眞機弩ヲ製ス○六年。七月。

金銀薄泥ヲ用ウルヲ禁ス

蕎麥ヲ種エシム

畿内國司ニ令シ。民ニ勸メテ蕎麥ヲ種エシム○七年。五月。五畿七道諸國ニ勅シテ。黍稷稗麥大小豆及胡麻ヲ播植セシム○淳和上皇崩ス○九年。七月。嵯峨上皇崩ス○是月。皇太子ヲ廢ス。初淳和上皇ノ晏駕スルヤ。春宮帶刀伴健岑太子ノ孤立安カラサルヲ恐レ。太子ヲ奉シテ亂ヲ作サントル。事覺ル。乃兵ヲ遣リ健岑ヲ收ヘテ流ニ處シ。遂ニ皇太子ヲ廢ス。朝野其冤ヲ悲ム○嘉祥三年。三月。天皇崩ス。在位十七年。皇太子立ツ。

皇太子ヲ廢ス

健岑流サル

文德天皇ハ。仁明帝ノ長子ナリ○天安元年。四月。

相坂關ヲ復シテ。新ニ大石龍華二關ヲ置ク○二年。八月。天皇崩ス。天皇明察ニシテ。心ヲ政事ニ留メ。禁網漸密ナリ。官署ノ廢置。吏人ノ遷除。相繼キテ止ムナシ。在位八年。皇太子立ツ。

禁網漸密

清和天皇ハ。文德帝ノ第四子ナリ。母ハ左大臣冬嗣ノ女ニシテ。太政大臣良房ノ妹ナリ○貞觀元年。五月。勃海入貢ス○是月。八幡太神ヲ男山ニ祀ル○二年。二月。天皇始メテ孝經ヲ讀ム○十二月。新ニ釋奠ノ式ヲ修メテ諸國ニ頒ツ○三年。六月。宣明曆ヲ行フ○六年。正月。天皇元服ヲ加フ。參議

宣明曆ヲ行フ

大江音人唐禮ヲ參酌シテ之ヲ定ム○八年。閏三月。大納言伴善男ヲ流ス。初善男左大臣源信ヲ陷レント欲シ。其子中庸ヲシテ紀豐城ト。應天門ヲ焚カシメ。誣奏シテ信ノ爲ス所トス。事覺ル。善男等罪斬ニ當ル。宥メテ之ヲ流ス。豐城ノ兄夏井。亦坐シテ土佐ニ流サル。夏井時ニ肥後守タリ。政績極メテ多シ。民其德惠ヲ慕ヒ。路ヲ遮リテ號哭ス

善男ヲ流ス

夏井肥後ニ守タリ

○八月。太政大臣良房ニ勅シテ政ヲ攝セシム。人臣ノ攝政。此ニ始マル○十一年。八月。太政大臣良房參議春澄善繩續日本後紀ヲ上ル○十四年。九

良房政ヲ攝ス

續日本後紀ヲ上ル

月。良房薨ス。天皇萬機ヲ親ス。舉朝大ニ悅フ。○十八年。十一月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十九年。

皇太子立ツ。

陽成天皇ハ。清和帝ノ第一子ナリ。右大臣基經攝政タリ。基經ハ良房ノ子ナリ○元慶二年。三月。出羽ノ俘夷叛キ。秋田城ヲ燒ク。藤原保則ヲ以テ出羽權守ト爲シ。小野春風ヲ鎮守府將軍ト爲シ。往キテ之ヲ鎮セシム。二人威信並行ハレ。刃ニ血ヌラスシテ。大亂ヲ定ム。津輕ヨリ渡島ニ至ルマテ。夷民咸內屬ス○三年。六月。春風凱旋ス。保則留リテ出羽ヲ鎮ス。出羽夷民雜居シ。田野膏腴ニシテ。多ク珍貨ヲ產ス。豪吏兼并シ。小民日ニ窮ス。保則嚴ニ法令ヲ設ケ。犯ス者ハ卽捕ヘテ之ヲ按ス。百姓安堵シ。邊境肅然タリ○十一月。右大臣基經文德實錄ヲ上ル○四年。十二月。上皇崩ス○五年。裝學院ヲ創建ス○六年。十月。勃海ノ使裴頲來ル。式部少輔菅原道眞ヲシテ接伴セシム○八年。二月。天皇位ヲ遜ル。在位七年。天皇嬉戲度ナシ。基經策ヲ定メ。乘輿ヲ陽成院ニ遷シ。時康親王ヲ迎ヘテ之ヲ立ツ。

出羽ノ俘夷叛ク

春風凱旋

保則出羽ヲ鎮ス

文德實錄ヲ上ル

裝學院ヲ創ム

基經策ヲ定ム

萬機先基經ニ稟ス

良基治績當時ニ最タリ

光孝天皇ハ。仁明帝ノ第三子ナリ○六月。詔シテ萬機ノ政先ヅ太政大臣基經ニ稟シ。然ル後奏問セシム○仁和元年。信濃守橘良基卒ス。良基五國守ニ歴任シ。治績當時ニ最タリ。其子嘗テ治民ノ術ヲ問フ。答ヘテ曰ク。百術一清ニ如カスト。卒スルニ及ヒテ。家ニ餘儲ナシ○十月。太宰府ニ勅シテ。唐物ヲ買フヲ禁ス

唐物ヲ買フヲ禁ス

私ニ唐物ヲ買フヲ禁ス○二年。正月。基經ノ長子時平ヲ召シテ冠禮ヲ行フ。天皇手ヲ冠ヲ加フ○三年。八月。天皇崩ス。在位三年。天皇恭謙ニシテ寛仁ナリ。又墜典ヲ興スニ志アリ。屢外朝ニ御シ事

天皇皇子多シ

ヲ視ル。初天皇皇子多シ基經ヲ憚リ。未立ツル所アラス。大漸ニ及ヒ。基經定省親王ヲ立テント請フ。天皇大ニ悅ヒ之ニ從フ。是ニ至リ皇太子立ツ。

基經ニ關白セシム

宇多天皇ハ。光孝帝ノ第七子ナリ○十一月。詔シテ大小ノ政悉ク太政大臣基經ニ關白セシム。關白此ニ始マル○寛平元年。正月。朔。天皇天地四方屬星山陵ヲ拜ス○三年。正月。太政大臣基經薨ス。基經職ニ在リ。縝密謹愼。政偏私ナク。人ヲ知リ善ク任ス。朝廷無事。內外肅然タリ。是ヨリ天皇政事ヲ親ラシ。攝政關白ヲ置カス○是歲。太宰大貳藤原

基經薨ス

保則ヲ左大辨ト為ス

保則ヲ以テ左大辨ト為ス。是ヨリ先。鎮西盜多シ。國司制スル能ハス。天皇保則ニ命シテ鎮撫セシム。保則任ニ赴ク。或兵ヲ發シテ掃蕩セント請フ。保則曰ク。民飢寒ニ逼ル。故ニ盜ヲ為ス。懷クルニ恩惠ヲ以テセハ。豈惡ニ陷ランヤト。乃廩ヲ發キテ賑給ス。衆民之ニ安ンス。天皇聞キテ之ヲ召シ尋キテ參議ニ任シ。民部卿ヲ兼ネシム○四年。藏人頭菅原道真ヲシテ類聚國史ヲ撰ハシム○六年。八月。遣唐使ヲ停ム。道真ノ請ニ因ルナリ○九月。新羅ノ海賊入寇ス。對馬守文室善友擊チテ之ヲ却ク○九年。七月。天皇位ヲ皇太子ニ傳ヘ。自ラ書ヲ著シテ。臣僚ノ賢否。國家ノ得失ヲ歷舉シ。以テ新主ヲ誡勅ス。又嘗テ殷周以來。名臣ノ像ヲ紫宸殿ニ圖セシム。是ヲ賢聖障子ト稱ス。登極以來。紀綱ヲ振ヒ。賢能ヲ擧ケ。天下大ニ治マル。在位十一年。皇太子立ツ。

類聚國史ヲ撰フ

新羅ノ海賊入寇ス

寛平遺誡ヲ著シテ

賢聖障子

醍醐天皇ハ。宇多帝ノ長子ナリ○昌泰二年。二月。藤原時平ヲ以テ左大臣ト為シ。菅原道真ヲ右大臣ト為ス。道真累辭スレトモ。聽カス○延喜元年。正月。右大臣道真ヲ貶シテ太宰權帥ト為ス。道真ヲ貶ス

翰林ヨリ起リ。官將相ヲ兼ネ。治體ニ諳練シ。裁決流ルヽカ如シ。時望遠ク時平ノ上ニ出ツ。時平懌ハス。文章博士三善清行書ヲ道真ニ與ヘ。退避ヲ勸ム。道真從ハス。時平大納言源光等ト讒ヲ搆ヘ。遂ニ之ヲ陷ル。天下其寃ヲ哀ム○八月。左大臣時平三代實錄ヲ上ル○九年。正月。常平倉ノ穀價ヲ定ム。毎升直三錢○十四年。二月。詔シテ直言ヲ求ム。式部大輔三善清行封事十二條ヲ上リ。祭祀ヲ肅ミ。奢侈ヲ禁シ。兼并ヲ抑ヘ。學田ヲ復シ。舞妓ヲ省キ。判事ヲ增シ。祿賜ヲ均クシ。吏民ノ告訴ヲ停メ。蠲符ノ人數ヲ定メ。使廳ノ弩使ヲ撰ヒ。僧徒ノ濫惡及宿衛ノ強暴ヲ禁シ。魚住ノ津泊ヲ修メシト請フ。皆時政ニ切ナリ。世之ヲ傳稱ス○延長五年。十二月。左大臣忠平延喜式ヲ上ル。忠平ハ時平道風清涼殿ノ壁ニ書ス ノ弟ナリ○六年。六月。少内記小野道風ヲシテ漢以來賢君名臣ノ言行ヲ清涼殿ノ壁ニ書セシム○八年。九月。天皇崩ス。遺詔シテ諡ヲ奉セサラシム。天皇精ヲ勵マシ治ヲ圖リ。百姓ヲ哀矜シ。寒夜寒夜御衣ヲ脫ス御衣ヲ脫キテ。民間ノ凍餒ヲ體スルニ至ル。群臣奏對スル毎ニ。必顏ヲ和ケテ之ニ接ス。後世治ヲ

言ヲ者。皆延喜ヲ稱ス。在位三十三年。皇太子立ツ。朱雀天皇ハ。醍醐帝ノ第十一子ニシテ。母ハ太政大臣基經ノ女ナリ。左大臣忠平政ヲ攝ス○承平元年。七月。宇多上皇崩ス○十二月。諸國ニ詔シテ農桑ヲ勸課ス○六年。六月。紀淑人ヲ以テ伊豫守ト為ス。淑人海賊ヲ撫シテ農耕ニ就カシメ。治聲アリ。

農桑ヲ勸課ス

淑人治聲アリ

將門反ス

頗著ル○天慶二年。十一月。平將門反ス。初將門攝政忠平ニ因リテ。檢非違使タラント求ム。忠平許サス。將門去リテ下總ニ據リ。兵ヲ出シテ關東諸國ヲ陷レ、都ヲ猿島ニ建テ。百官ヲ置キ。自ラ新皇ト稱ス。將門ノ京師ニ在ルヤ。藤原純友ト友トシ善シ。是ニ至リ。純友伊豫掾タリ。任滿チテ還ラス。海島ニ據リテ盜ヲ為シ。南海山陽ヲ劫掠シ。遥ニ將門ニ應ス。天下騷然タリ○三年。正月。參議藤原忠文ヲ以テ征東大將軍ト為シ。東海東山ノ兵ヲ募リ。將門ヲ討タシム。未至ラス。常陸掾平貞盛下野掾藤原秀郷ト。將門ノ備ナキヲ窺ヒ。急ニ襲ヒテ之ヲ誅ス。忠文引キテ還ル。時ニ純友南海道追捕使小野好古ノ敗ル所ト為リ。逃レテ太宰府ニ在リ。凶勢復振フ。明年。好古精鋭ヲ率ヒ。擊チテ純友

純友將門ニ應ス

將門誅ニ伏ス

ヲ走ラス。純友伊豫ニ還リ。終ニ捕斬セラル。事平ク。是ヲ天慶ノ亂ト曰フ○九年。四月。天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。在位十六年。皇太弟立ツ。

天慶ノ亂

村上天皇ハ。醍醐帝ノ第十四子ニシテ。朱雀帝ノ同母弟ナリ。右大臣實賴ヲ以テ左大臣ト爲シ。大納言師輔ヲ右大臣ト爲シ。太政大臣忠平ト並ニ政ヲ輔ケシム。實賴師輔ハ忠平ノ子ナリ○天曆三年。九月。陽成上皇崩ス○五年。十月。和歌所ヲ置ク○六年。八月。朱雀上皇崩ス。朱雀院ト稱ス。天皇院ト稱スル此ニ始マル○八年。七月。群臣ニ勅シテ。闕政ヲ言ハシム。大内記菅原文時封事ヲ上リ。奢侈ヲ禁シ。賣官ヲ停メ。鴻臚館ヲ修メント請フ。言甚剴切ナリ。天皇之ヲ嘉納ス。文時ハ道眞ノ孫ナリ○天德元年。七月。吳越持禮使盛德言來ル○四年。九月。禁中火アリ。累朝ノ寶器文書多ク亡フ○康保四年。五月。天皇崩ス。天皇夙ニ文藻ニ富ミ。最心ヲ政治ニ留ム。後世治ヲ言フ者。必延喜天曆ト稱ス。在位二十一年。皇太子立ツ。

和歌所ヲ置ク

文時封事ヲ上ル

吳越持禮使來ル

延喜天曆ト稱ス

冷泉天皇ハ。村上帝ノ第二子ナリ。關白實賴政ヲ決ス○安和元年。七月。東大寺興福寺ト田ヲ爭ヒ

兵ヲ構フ。使ヲ遣リテ鞫問ス。是時。佛寺ノ大ナル者極メテ多ク。二寺最大ニシテ。皆僧徒數千人アリ。後漸放縱制スヘカラス○二年。三月。左大臣源高明ヲ貶シテ太宰權帥ト為ス。初中務少輔橘繁延等為平親王ヲ奉シテ亂ヲ作サント謀ル。時ニ高明ノ女。親王ノ妃タリ。右大臣藤原師尹因リテ高明ヲ階レ之ニ代リ。遂ニ繁延等ヲ流ス○八月。天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。天皇儲貳タリシヨリ。心疾アリ。位ニ即クニ及ヒテ。增劇シ。政遂ニ外戚ニ歸シ。朝綱振ハス。在位三年。皇太弟立ツ。

僧徒放縱ナリ

高明ヲ貶ス

政外戚ニ歸ス

圓融天皇ハ。村上帝ノ第五子ニシテ。冷泉帝ノ同母弟ナリ。太政大臣實賴政ヲ攝ス○貞元元年。五月。禁中火アリ。天皇徙リテ關白藤原兼通ノ第ニ御ス。兼通驕奢ニシテ。盛ニ第宅ヲ治ム。人呼ヒテ今内裏ト云フ○二年。十月。關白兼通罷ム。左大臣藤原賴忠ヲ以テ關白ト為ス。初兼通弟兼家ト隙アリ。是ニ至リ疾ニ寢ヌ。兼家入朝ス。門ヲ過キテ入ラス。兼通大ニ怒リ。疾ヲカメテ朝ニ詣リ。請ヒテ除目ヲ行ヒ。兼家ノ大將ヲ褫ヒ。家ニ還リテ薨ス○天元三年。十一月。禁内火アリ○四年。三月。修

今内裏関白兼通罷ム

禁内火アリ

宮ノ役ヲ除キ。諸國田租ノ半ヲ免ス○永觀二年。八月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。天皇末年。紀綱大ニ紊レ。盜賊横行シ。火ヲ禁内ニ放ツニ至ル。在位十五年。皇太子立ツ。

紀綱大ニ紊ル

華山天皇ハ。冷泉帝ノ長子ナリ。太政大臣藤原頼忠左大臣源雅信右大臣藤原兼家并ニ故ノ如シ

天皇位ヲ遜ル

○寛和二年。六月。天皇位ヲ遜ル。初天皇政ニ勤メ。紀綱稍振フ。既ニシテ妃藤原氏卒ス。天皇悲哀シ心亂ル。兼家皇太子ノ即位ヲ早クセント欲ス。其子道兼因リテ天皇ヲ賺シ。華山ノ元慶寺ニ落飾セシム。在位二年。皇太子立ツ。

一條天皇ハ。圓融帝ノ子ニシテ。母ハ右大臣兼家ノ女ナリ○永延元年。二月。僧奝然宋ヨリ還リ。印本一切經ヲ獻ス。印本ノ行ハルヽ。此ニ始マル○九月。兼明親王薨ス。兼明宏才博學ニシテ。圓融ノ朝左大臣タリ。攝政兼通之ヲ忌ミ。奏シテ中務卿ト為シ。其權ヲ奪フ。親王乃別莊ヲ龜山ニ營ミ。蒐裘ノ賦ヲ作リ。以テ自遣ル。世ニ中書王ト稱ス○正暦二年。二月。圓融法皇崩ス○四年。八月。左右獄ノ囚人ヲ釋ス○五年。正月。天皇始メテ除目ヲ視

印本行ハル

中書王

獄囚ヲ釋ス

ル○是歳。盗賊横行シ。禁内屢火アリ○長徳三年。十月。高麗ノ人西邊ヲ侵ス。太宰府兵ヲ發シ。擊チテ之ヲ却ク○長保二年。正月。女御藤原彰子ヲ立テ、中宮ト為ス。皇后中宮並ヒ立ツ。此ニ始マル

高麗西邊ヲ侵ス

皇后中宮並ヒ立ツ

○寛弘五年。二月。華山法皇崩ス○六年。七月。中務卿具平親王薨ス。具平英敏ニシテ技藝多シ。世ニ後中書王ト稱ス○八年。六月。天皇位ヲ皇太子ニ傳ヘ。尋キテ崩ス。天皇慈仁ニシテ下ヲ恤ム。嘗テ延喜帝ニ倣ヒ。冬夜御衣ヲ脱キ。民ノ寒苦ヲ體ス。此時、源俊賢藤原行成藤原齊信藤原公任。才學ヲ

後中書王慈仁下ヲ恤ム

以テ著ル。世ニ四納言ト稱ス。天皇自ラ人ヲ得ルニ誇ル。然レトモ兼家及其子道長權ヲ專ニシ。終ニ制スル能ハス。在位二十五年。皇太子立ツ。

四納言

三條天皇ハ。冷泉帝ノ第二子ニシテ。母ハ太政大臣兼家ノ女ナリ○八月。左大臣道長ヲシテ太政官ノ文書ヲ知セシム○長和三年。三月。内藏寮掃部寮火アリ。累代ノ寶器藥物多ク亡フ○四年。十月。道長ニ敕シテ。京官ノ除目ヲ直廬ニ行ハシム。其儀攝政ニ準ス○五年。正月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。初天皇眼ヲ患フ。道長醫ヲ進ム。醫方ヲ誤リ。

除目ヲ直廬ニ行フ

遂ニ明ヲ失フ。道長屢遜位ヲ諷ス。是ニ至リテ脫屣ス。在位五年。皇太子立ツ。

校刻古今紀要卷一終

小學教科發兌書目

松村九兵衛

一 修身訓本 馬場健編輯 先賢遺範 初等 嘉言部 全五冊
一 同 同 中等 嘉言部 善行部 全六冊
一 同 同 高等 嘉言部 善行部 全二冊
一 高橋恕 和田英弋編輯 漢和善行錄 全三冊
一 川島梅坪編輯 古今紀要 全四冊
一 和村自一編輯 修身要訣 增補 全二冊
一 同 國體大意 高正 增補 全二冊
一 浦谷義春譯 小學人身窮理 全二冊
一 同 同 同 嵩 二帖
一 小川彌典編輯 作文教授本 初等 全二冊
一 同 同 中等 全二冊
一 同 同 高等 [redacted]
一 貝原篤信原著 松本平太郎刪補 家道訓 全三冊
一 刪定 增補 片岡義勤編輯 珠算訓蒙 全三冊
一 谷萬吉郎編 村田海石書 小學習字本 八冊出版
一 村田海石書 真書千字文 全一冊
一 同 行書千字文 全一冊
一 同 草書千字文 全一冊

000584-001-2

210.1-KA939k

古今紀要

川島　楳坪／編

M14

ACB-0890

210.1
Ka939k